

1 法人の概要

2 事業の概要

(1) 平成25年度の主な事業の概要

(2) 教育研究の概要

- ① 学部学科組織
- ② 教員組織及び教員数並びに教員の学位等に関する情報
- ③ 学部・学科の学生定員及び在籍学生数等(学部)
- ④ 教育課程に関する情報
- ⑤ 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報
- ⑥ 学習環境に関する情報
- ⑦ 学生納付金に関する情報
- ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

3 財務の概要

(1) 財務の概要

(2) 財産目録

(3) 貸借対照表

(4) 収支計算書

- ① 資金収支計算書
- ② 消費収支計算書

(5) 監査報告書

2014 年度法人の概要

◎目的

教育基本法及び学校教育法に従い、芸術立国の志によって世界の恒久平和に寄与し、これに資する人材の育成を目的とする。

京都文藝復興 <http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/philosophy/bungei/>

◎沿革

1934 年 藤川衣服研究所開設

1947 年 財団法人藤川衣服研究所認可

1951 年 学校法人の認可

1959 年 学校名を藤川服飾学院に、学校法人名を藤川学園に改称

1964 年 藤川デザイン研究所設立

1967 年 藤川デザイン研究所を藤川デザイン学院と改称

1975 年 藤川服飾学院を京都服飾芸術学院、藤川デザイン学院を京都造形芸術学院と改称

1977 年 京都芸術短期大学（造形芸術学科）を設置

短期大学開設に伴い、京都服飾芸術学院、京都造形芸術学院を廃止

1979 年 専攻科を設置（「学士」学位が取得可能に）

学校法人名を瓜生山学園に改称

1991 年 京都造形芸術大学（芸術学部）を設置

1996 年 大学院芸術研究科（修士課程）を設置

1998 年 通信教育部（芸術学部）3 学科 8 コースを設置

2000 年 京都造形芸術大学、京都芸術短期大学を統合し、総合芸術大学に再編

大学院芸術研究科芸術文化研究専攻、芸術表現専攻（修士課程）、芸術専攻（博士課程）
を設置

2001 年 京都芸術劇場を開設

2002 年 通信教育部（芸術学部）を 3 学科 11 コースに改組

2003 年 通信教育部（芸術学部）を 3 学科 12 コースに改組

2005 年 こども芸術大学を開設

康耀堂美術館が本学に寄贈される

2007 年 通信教育部大学院修士課程を設置

芸術学部を 10 学科 29 コースに全面改組

社会芸術総合研究所を開設

2009 年 芸術学部を 10 学科 31 コースに改組

通信教育部（芸術学部）を 3 学科 13 コースに改組

2011 年 芸術学部を 13 学科 34 コースに改組

通信教育部（芸術学部）を 3 学科 14 コースに改組

2013年 京都国際観光文化学院と法人統合

芸術学部を13学科21コースに改組

通信教育部（芸術学部）に芸術教養学科を設置

◎設置する大学（2014年9月1日現在）

- ・設置者 学校法人瓜生山学園
- ・所在地 京都市左京区北白川瓜生山2番地116号
- ・理事長 徳山 豊
- ・設置する大学 京都造形芸術大学
学長 尾池 和夫

◎役員及び教職員に関する情報（2014年5月1日現在）

役員		教員		職員	
理事	17名	教授	126名	法人	12名
評議員	35名	准教授	70名	大学	172名
監事	3名	講師	26名		

◎役員一覧（2014年9月1日現在）

- ・理事
理事長 徳山 豊
副理事長 古澤 茂堂
常務理事 大野木 啓之
学長 尾池 和夫
徳山 詳直
上村 博
小川 後楽
片上 義則
北村 誠
熊谷 尚之
坂元 徹
高久 正史
西崎 義雄
根岸 吉太郎
野村 真司
佐藤 禎一
福山 哲郎
- ・監事
斉藤 利一郎
松芝 政雄
湊 信明

平成 25 年度事業報告

平成 25 年度は、京都芸術デザイン専門学校および京都文化日本語学校を学校法人瓜生山学園に統合し、平成 28 年度の瓜生山学園 40 周年に向けた基盤整備の年度であった。次代の芸術大学スタンダード構築を目指し、「学生の就業力育成」や「社会人に対する芸術教育活動の普及拡大」を目指した教育改革の推進、専門学校の「出口の質を高める」中期計画のスタート、ならびに日本語学校の大学と連携した募集力向上に取り組んだ。

■京都造形芸術大学

I. 京都造形芸術大学通学課程

□芸術学部

①教育改革の進捗

平成 25 年度は、平成 26 年度カリキュラム改革の準備とトライアルの年と位置づけ、様々な活動を行った。

平成 26 年度からの新しい教育課程は、創造学習科目と専門科目とし、創造学習科目は、創造基礎、基礎教養、キャリア創出の3つのカテゴリーを持ち、従来の芸術教養科目と比べ、基礎力とキャリア支援に関する科目を大幅に充実させることとした。履修指導に関しては、新年度ガイダンスを従来の履修登録方法の説明中心から、大学で学ぶ動機付けを目的とする内容に切替え、教職員対象のコーチング研修も実施した。更に平成 26 年度からクリエイティブベーシック(マンデープロジェクト)の中にキャリアプランニングの要素を取り込むプログラムを、芸術教養の担当教員と教務委員会WG合同で検討を行った。7つの能力を評価指標としたトライアル授業を行いその授業評価に基づいた学生の7つの能力チャートを作成し、学習相談で利用。更に、教務委員会のWGでは授業参観を重ね、7つの能力による授業運営マニュアルを作成し、非常勤講師も含め全教員に配布した。

入学前プログラムでは、キャリア関連の課題も設定し、新カリキュラムに対応した内容に一部変更を行った。更に新しい学習サポートシステムの準備も進め、平成 26 年度からは、順次新しい機能がカットオーバーできるように基幹システムの開発を行った。

教育力向上プロジェクトは、2 期生 25 名の教員を対象とした研修を年間通して行い、授業アンケートの結果では、同研修を受講した教員の評価が有意に高い事が確認された。

上記のようにカリキュラムに留まらず、学習を取り巻く環境の整備、一貫した履修指導方針の策定など、学生の就業力アップに繋がる数多くの施策の準備とトライアルを行った。

②進路決定状況

平成 25 年度芸術学部卒業生の進路決定率((就職+進学)/卒業生)は 79.1%。平成

21年度の55.2%から平成24年度の80.2%まで3年間で進路決定者は1.5倍に急増したが、平成25年度は伸び悩んだ。本学は平成29年度卒業生での進路決定率90%を目標に掲げており、キャリア支援のさらなる展開が求められる状況にある。全教職員が「就業力を重視する芸大」に働く自覚を持って仕事をする体制作りが課題となっており、平成26年度からは年4回開催のキャリアデザイン委員会を毎月開催することを決定した。4回生11月時点での内定者が学年の25.3%、就活生の43.6%(大学平均は10月1日時点で64.3%)に過ぎないことが伸び悩みの原因とみなされることから、入学から就職活動のスタートまでの全期間でキャリア授業が受講できる科目設計を行い、保護者向けキャリアガイダンスを複数回(入学式、6月、3月)実施するなど、サポートの多方面からの拡充を行った。

③学生募集

平成26年度入学者の学生募集は、総志願者数2,682名(前年比254名減、91.3%)と前年を下回った。

芸術系大学の志願者層が、全国的に前年比10%を下回り続ける状況の中で、平成25年度は、平成30年からの18歳人口減少を見据えた学生募集活動の基盤を安定させる中期計画(平成24年度策定)を本格的に実行に移す1年と位置づけた。具体的には、「芸大・美大・専門学校一日体験入学」を11都市で実施し、498名の高校生と接触する機会を構築。これを機に、各地方の高校や予備校と新たな関係を強化し、上記企画と連動させ「高校・予備校教員向け研修大会」の2回目を開催。本学を中心とするネットワークに50校56名の先生方を集めることができた。これらの活動を基盤として、大阪府進路指導部会140校への講演、和歌山県進路指導部会での70校への講演、熊本県美術工芸部会30校への講演とつながり、本学と高校・予備校の強固なネットワーク作りの地盤を固める1年となった。

海外の学生募集活動については、7月および2月(卒業制作展時)に韓国の主要予備校・高校教員をそれぞれ10名、8名招聘し、本学教員と詳細な情報交換を行う場を設計した。韓国の先生方から様々な提言をいただき、次年度以降の募集方法に反映を行う。台湾事務所では、台湾同窓会の立ち上げを行い、台湾でのさらなるネットワーク強化に努めるとともに、ALIAを契機に台北芸大との合同ワークショップなどの活動も始まった。また、上海事務所では、これまでの情報発信が寄与し、上海MOCAで大野木副学長、浅田教授の講演を開催。200名以上の来場者を迎える。それを契機に、本学の教員による上海MOCAでの定期的な講演が確定し、今後本学の上海を中心とした強力な情報発信の場が整った。

第2回東アジア高校生国際公募展の出品数は3,459点(昨年度1,933点)と昨年を上回る規模に拡大した。

□大学院芸術研究科

平成 25 年度は、修士課程で 74 名(学術 12 名、芸術 62 名)、博士課程 5 名(芸術 5 名)が学位を取得した。修士課程においては、過去最も多い学位取得者数となった。一方で博士課程においては、制作指導と論文指導の二人体制での指導の結果、非常に質の高い学位審査が行われ、本学独自の指導方法の有効性が示された。

平成 25 年度には、専攻長会議の中で議論を重ね、平成 28 年度にかけての大学院改革の方針を決定した。「新たな社会の創造・成長を牽引する人材、国際社会で活躍するリーダーの養成」を教育目標とし、修士課程の専攻統合、専任教員選考、学術研究センターの再編等を骨子とし、平成 25 年度には、大学院教員審査規程を策定し、平成 26 年度にはこれを受ける形で、審査委員会の実運営を行う予定となっている。平成 27 年度に修士課程の専攻統合を目指して、平成 25 年度から準備に着手した。

平成 25 年度修士課程入学生 74 名の内 26 名、約 1/3 が留学生となっており、日本語教育の必要性も高まっており、大学院指導の課題となっている。

平成 26 年度入学生の大学院学生募集は、学内選抜制度の制度改善、広報の徹底に伴い、学内志願者の増加を目標とするとともに、留学生の志願者増を目指して国内日本語学校への広報強化を行った。

大学院修士課程の志願者は、前期・後期あわせて 110 名(平成 25 年度 121 名)となり、前年度より 11 名(91.0%)下回る結果となった。一方、学内選抜制度については、趣旨および実施方法を整備し、内部志願者の増加施策に取り組み、志願者数 17 名(前年比 4 名増 121.4%)となった。

II. 通信教育課程

□通信教育部芸術学部

①芸術教養学科開設

平成 25 年度は、平成 10 年度の通信教育部開設以来、初めての学科設置となる芸術教養学科を開設し、春季 581 名、秋季 104 名の合計 685 名の学生が入学し学習を開始した。芸術教養学科のために新たに開発したメディア利用による授業(Web Schooling=WS 科目)は、芸術史講義 16 科目 32 単位、芸術教養講義 4 科目 8 単位の計 20 科目 40 単位を開講した。また、電子テキストを利用し Web 上でレポート提出及び単位修得試験を受験して学習する WT 科目(Web Text)は 31 科目 62 単位開講した。学生の履修は順調に進んでおり、丁寧な指導に対する学生の満足度も高くなっている。特に WS 科目については、学生一人当たりの年間修得単位数が 11.3 単位となり WT 科目の 3.6 単位、既存 3 学科の T 科目 5.6 単位、S 科目 5.8 単位と比較して高い値となっている。「いつでも」「どこでも」芸術を学べることを目指して開発した授業が、実際の学習と結びついていることが分かり、順調なスタートが図れたといえる。

また、低廉な学費や、対面授業を必要としないこと等から、学籍更新率は既存 3 学科と比較すると低くなると予測していた。しかしながら、入学初年度から 2 年目への学籍更新率が 80.3%となり、既存 3 学科の 87.2%と共に、比較的安定した結果となった。なお、休学者を除き学習を続けた学生の割合である学習継続率は芸術教養学科 70.2%に対し既存 3 学科は 75.6%となっている。学生の意見に丁寧に耳を傾けながら、きめ細かいサポートを行い、学籍更新率の向上を図っていきたい。

次年度開講科目についても、WS 科目 6 科目 12 単位、WT 科目 9 科目 18 単位の教材開発を進めている。

②既存 3 学科の改善

芸術学科・美術科・デザイン科の既存 3 学科においては、これまでの改革のブラッシュアップを継続して行い、前段の芸術教養学科開設とあわせ、在籍者数が平成 25 年度は 5,739 名と前年比 600 名増加した。

平成 25 年度は通信教育課程の独自性(社会人学生、短期日程の面接授業)を踏まえた実践的な FD 研修「通信教育スクーリング授業におけるティーチングスキルの向上」を通信教育担当教員が 35 名参加して開催した。

陶芸コースおよび染織コースにおいては、平成 26 年度に向けてカリキュラム改革の準備を行った。陶芸コースでは「生活の中の工芸」を、染織コースでは「染」「織」のクラスを廃止し「幅広い基礎力を身につけ、表現の幅を広げる」をコンセプトに、両コースとも社会人にとって取り組みやすいカリキュラムとスクーリング日程の設計を行った。

また、平成 29 年度の改革に向けて、平成 27 年度より WS 科目および WT 科目を既存学科でも履修できるようにするための準備に着手した。

学生一人当たりの修得単位数は、いずれの学科も平成 21 年度比較すると増加しており、さまざまな改革の成果が学生の学習に結びついていると言える。年間のテキスト科目の添削件数は 17,930 件と芸術教養学科の開設に伴い前年から 501 件増加している。スクーリングは開講数 972 講座、延べ受講者数 20,038 名と前年より若干の減少となっている。

③学生募集

大学通信教育正規課程の在籍者数が、平成 17 年度の 200,393 人をピークに平成 25 年度には 169,643 人に減少している中、本学の平成 26 年度入学の学生募集は、総出願者数 1,681 名(前年比 189 名減、89.9%)となった。新設 2 年目を迎えた芸術教養学科は、志願者数 429 名(前年比 164 名減、72.3%)となった。そして、芸術学科・美術科・デザイン科の 3 学科は、1,258 名(前年比 19 名減、98.5%)となり、昨年度をやや下回る結果となった。科目等履修生については、博物館学芸員課程 81 名(前年比 5 名増、106.6%)、臨床美術士課程 46 名(前年比 5 名増、112.2%)と昨年を上回る。

新学科の立ち上げに伴う積極的な広報展開に加え、昨年度より継続して行っている通

信教育部での学びの魅力や喜びを繰り返し伝える広報(DM、メルマガ、説明会での体験授業、一日体験入学の実施)が重層的に寄与し、資料請求者は32,643名(前年比2,646名増、108.8%)、単独説明会の来場者は2,621名(前年比125名増、105.0%)と一定の成果をあげたが、それが出願の結果に結びつかなかった点も踏まえ、新たな広報戦略の策定を次年度に向けて行う。

□大学院 芸術研究科[通信教育]

平成25年度は84名の入学生(昨年度81名)を迎え在籍者が176名となった。修了制作研究の結果、芸術環境研究領域23名、美術・工芸領域29名、環境デザイン領域22名の計74名が修士の学位を取得した。

芸術環境研究領域においては、研究指導体制の充実ときめ細やかな学生指導を目指し、平成25年度より研究ジャンルを「美学・芸術理論」「西洋美術史」「日本美術史」「日本芸能史」「日本文化史」「喫茶文化史」「文芸研究」「創作文芸」「芸術計画・教育普及」と明確化した。

Ⅲ. 藝術学舎(東京藝術学舎・大阪藝術学舎・京都藝術学舎)

平成25年4月より、瓜生山エクステンションセンターを藝術学舎に組入れ、京都藝術学舎とし東京、大阪、京都を拠点とする藝術学舎がスタートした。各学舎の開講数および受講者数は以下のとおりとなっており、東京および大阪では受講者数が前年度を上回り、開設以来安定した推移となっている。なお、京都藝術学舎は学舎統合に伴い、講座の統廃合等を実施したため受講者数が減少している。3学舎合計では受講者数は増加しており、受講料収入も129百万円となった。

学舎受講者からの通信教育部への入学者数は115名となり前年の95名から増加した。平成25年度の通信教育部在学生の学舎受講による認定単位数は1,757単位となっており、前年度の1,269単位より大幅に増加している。

◇藝術学舎受講者数

学舎		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
東京	講座数	104	132	146	152
	受講者数	1,325	2,515	2,765	3,123
大阪	講座数			70	71
	受講者数			1,008	1,490
京都	講座数	55	73	68	49
	受講者数	1,566	1,620	1,750	1,410
合計	講座数	159	205	284	272
	受講者数	2,891	4,135	5,523	6,023

IV. 京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局 芸術学舎

平成 25 年度は出版局「芸術学舎」として、通信教育部芸術教養学科の教科書「芸術教養シリーズ 1～16」を刊行し、初めての出版を行った。芸術教養シリーズは、日本・西洋・アジア・近現代の芸術史をそれぞれ造形篇と文学上演篇に区分して各二冊としている。10 月以降、順次大手書店に市販流通させた。カラー図版を多用し、通史を学ぶことを念頭に 16 冊を同じ視点で監修した良書となっており、いずれの書籍も書店で平積みされ、7,803 冊の販売冊数となった。また、平成 26 年度刊行に向け、芸術教養学科教科書である「芸術教養シリーズ 17～26」「芸術教養古典文献アンソロジー1、2」、さらに初めての「芸術学舎」独自企画となる 2 冊の発刊準備も行った。

V. 国際交流

平成 25 年度は、国際交流事業と留学生支援事業を統合した「留学センター」を設置して 2 年目となり、「出口につながる国際交流」「留学生受け入れの推進」の 2 点を目標に掲げ、就業力を重視する芸大としての国際交流プログラムの設計に取り組んだ。派遣に関しては、留学による気づきや成長を学生自身が言語化できることを目指し、出口につなげる方針で各プログラムを策定。受入に関しては、3 校合同でのリクルート戦略立案を目指した。

交換留学の受け入れは、イギリス 5 名、フランス 4 名、韓国 3 名、スイス 2 名、イタリア 1 名、スウェーデン 1 名、フィンランド 1 名の過去最多 17 名を受け入れた。その相乗効果もあり、平成 26 年度秋の本学学生の交換留学プログラムの申込者も過去最多の 19 名となる。

また、イギリス・ボーンマス芸術大学夏季英語研修には、10 名の学生が参加し、TOEIC スコアが平均 80 点伸びた。そのほかにも TOEIC, IELTS, TOEFL 受験学生への計 37 名の受験料補助を行い、TOEIC 団体一括受験申込を開始し 3 回の実施で 70 名受験。

短期海外研修ツアーは、チェコ、イギリスの 2 ツアーを実施し、36 名の学生が参加。韓国芸術総合学校との「第 3 回日韓デザインワークショップ」は 10 名の学生が韓国での研修に参加した。

国際ネットワークとして、ALIA(アジア芸術教育協議体)の第 1 回理事会、第 1 回国際会議が本学で開催され、それに関連して、加盟校からの訪問や本学からの視察、学生交流を実施した。12 月の会議では、アジア 14 カ国 1 地域・15 校 1 機関の学長または代表が参加、アクションプラン「京都アジェンダ」をうち 14 校で採択し、本格的に活動を広げる 1 年となった。

VI. こども芸術大学

平成 25 年度は入学生 19 組(前年 13 組)、在籍者 44 組となった(5 月 1 日現在)。また年度末には卒業生 14 組を送り出し、卒業生は総勢 82 組となった。

本年度も社会貢献の一環として、地域の親、教育者向けセミナー、親子のワークショップ、子ども向けワークショップを開催した。地域の乳児をもつ親子対象の子育て支援ワークショップ「トット01」を6回実施(130組参加)、京滋地区の親や教育関係者対象の子育て支援セミナー「お母さんお父さんのための公開セミナー」を4回実施(76組参加)、夏休み子ども向け楽器づくりワークショップ(15組参加)を行った。また、より普及促進を図るため実験的に学外機関に協力を得たワークショップを実施し、THE SODOH HIGASHIYAMA には18組の親子、みやこメッセ(外部主催)には本学ブースに2日間で131名の参加があった。

また前年度の「生活から生まれる新しい造形活動 子どもとアート」(小学館)に続いて、こども芸術大学が紹介された単行本「森を見る力」(橘川幸夫著 晶文社)が平成26年2月に発行された。

Ⅶ. 研究センター・産官学連携

・文明哲学研究所

本研究所の客員教授である各界一流の論客(メンバー14名)が結集して計4回の「平和文明会議」を開催し、「人類は核エネルギーに耐えられるのか」「反原発を進める科学と国家のあり方」「近代文明と「核」ー「日米原子力協定」のゆくえ」「核」のない“暮らし”と文明」をテーマに討議を行った。各会議の討議内容は「平和文明会議 会議録」として冊子にまとめアーカイブ化するとともに、研究所ホームページ上で広報を行っている。

瓜生館「ソフィア・サロン」は文哲研の発信基地としての活用をはかり、大石芳野写真展「FUKUSHIMA・土と生きる」、世界の核実験を視覚化した橋本公作品の展示など、イベントや展示企画を開催した。また、東北芸術工科大学を会場として第1回市民講座「小出裕章氏講演会」を開催し、500名近い参加者を得た。

年度後期には、藝術と平和、藝術と哲学、藝術と自己などに関するオムニバス授業「藝術平和学」講義を展開し、学生とのコミュニケーションを図った。

・舞台芸術研究センター

舞台芸術研究センターでは、企画製作した『石のような水』(フェスティバル/トーキョー主催で東京公演も開催)、『葵上/二重の影』をはじめ18の主催公演、1展示と3つの研究会・ワークショップ、またアートマネジメント講座全15回を実施し、刊行物『舞台芸術18号』を企画・編集した。競争的資金では、平成21年度から5年間にわたる「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」が25年度をもって終了する一方、あらたに文部科学省「共同利用・共同研究拠点」事業、文化庁「劇場・音楽堂等活性化事業」、「大学を活用した文化芸術推進事業」に認定された。「共同利用・共同研究拠点」事業では4つのテーマ研究を開催し、学外、国外の第一線で活躍する研究者やアーティストと活発な研究交流を行った。

・日本庭園・歴史遺産研究センター

日本庭園・歴史遺産研究センターの日本庭園研究部門では「京都御苑桂宮邸跡庭園調査(環境省)」ほか計 18 事業及び 2 公開講座(単年度総受託費:43 百万円)、歴史遺産研究部門では「国立民族学博物館・標本資料の保存管理手法の研究」など 8 事業及び 1 公開講座(単年度総受託費:6 百万円)となった。

・ものづくり総合研究センターおよびプロジェクトセンター

ものづくり総合研究センター及びプロジェクトセンターでは、48 件の受託案件(一部助成を含む)を実施。学生の参加は、延べ 725 名、実数 584 名(専門、日本語学校含む)と、共に過去最高となった。主な受託事業として、二条城ライトアップ、アパレル大手の㈱ワールドのウィンドウディスプレイ制作と子供向けワークショップイベントなどの空間演出デザインや、東山区、大山崎町、鳥取市等での地域振興プロジェクト等を前年より継続して実施。さらに、新たに東洋ケース㈱との商品開発や関西盲導犬協会とのイベント企画なども行った。これらには空間演出デザイン学科、プロダクトデザイン学科、こども芸術学科、美術工芸学科、ASP 学科などの教員も参加。学科教育とも連動した運営ができた。また、ウルトラファクトリーでは瀬戸内国際芸術祭・あいちトリエンナーレ等の出品作品を多数制作。案件数は前年より多く、受託事業収入としては約 50 百万円となった。

・アートリンクセンター

平成 25 年度は、京都市教育委員会連携協議会総会(本学開催)において、高野中学校及び北白川小学校との連携報告を行い、本学の教育に対する考え方を社会化する機会とした。特徴的な活動としては、京都光華高校、下関商業高校、京都文化日本語学校など、年間を通じた継続連携に取り組み、国語・体育といった一般教科内での連携実践、現場教員との協働でのカリキュラム開発、日本語教育としての実践、といった多様な連携の事例を築いた。

・アートコミュニケーション研究センター

平成 25 年度は、従来の対話型鑑賞教育研修だけでなく、企業研修の受入れやテキスト出版を行った。4 年連続の開催となる教員免許状更新講習の他、教育関連・企業等からの研修受託など、過去最多となる事業を実施した。また、日本文教出版社より、図画工作・美術の教科書副読本「みる 考える 話す 聴く 鑑賞によるコミュニケーション教育」を刊行した。

・京都文藝復興倶楽部

京都文藝復興倶楽部では、本学教員や各界の第一線で活躍している方々を迎え、平

成 23 年度より 2 ヶ月に一度サロンを開催している。各回設定したテーマを基にレクチャーと交流会を開催し、会員企業間の交流を活発に行った。また、京都の職人調査もプロジェクトセンターと連携し継続中であり、プロジェクトセンター主催で開催された職人サミット 2 にも会員企業が参加した。

VIII. その他大学附置機関からの芸術活動発信

・京都芸術劇場

平成 25 年度、京都芸術劇場「春秋座」では、大学主催、舞台芸術研究センター主催、その他外部使用を含む 45 の公演・シンポジウムが行われ、延べ 22,310 名の来場者となった。その他、授業使用が 59 日、大学行事使用が 29 日、公演の仕込み・稽古使用が 86 日あり、高い稼働率を維持している。また学生がフロントスタッフや搬入・搬出のアルバイトで参加し、研修の場としても積極的に活用されている。また studio21 では、卒業制作公演 3 本、授業発表 6 本、その他企画 9 本に 5,563 名の来場者があり、このほか、授業での積極活用が続いている。

・康耀堂美術館

平成 25 年度は、4 回のコレクション展と本学と連携した特別展や長野県作家の企画展を開催したほか、5 回の展覧会関連企画、コンサート等 9 回のイベントを実施。来館者数は 95% (5,524 人) に留まったが、全体の売上は前年比を 14% 上回り、カフェの利用者は 12% 増加 (2,148 人)。平成 22 年度から実施している茅野市教育委員会との連携による体験授業は継続して実施。前年に比べ近隣の学校と連携した鑑賞授業が増え、子どもたちが美術館に親しむ環境が定着してきた。昨年から参加している茅野市ミュージアム活性化事業では、ワークショップの他、スタンプラリーやツアーを実施し、新規来館者の確保に繋がっている。

・芸術館

展覧会事業として、コレクション展Ⅰ～Ⅲ、特別展 1『起源を歩く・JOMON と原田要の庭』、特別展 2『劇聖 vs 明治の写楽』を開催し、総入館者数 3,133 名となった。また、教育普及事業として芸術館ワークショップを計 4 回開催した。

夏季休暇中に「シルクロードコレクション再調査・撮影」「通学・通信教育部の博物館実習及びスクーリング」「学生作品展(キャラクターデザイン学科)」「伏見人形寄贈に関する調査と集荷・搬入」等を実施した。

・ギャラリー・オーブ

ギャラリー・オーブでは 10 の展覧会を開催し、総入場者数は 16,341 名であった。

平成 25 年度は、学内から社会へ向けて発信する開かれた作品発表の場としての役割をより強化するため、初の試みとして本学の在学生・卒業生および教員の企画公募展を計 9 本開催した。また、学科主導の企画展を 2 本開催し、学生有志が企画段階から展覧会の運営まで関わり、授業や自主学習の成果と連動した有意義な展覧会となった。

このほか、プロジェクトの成果発表展や、例年のように通学部・通信教育部の卒業制作展がおこなわれた。

また一方で、TEDx のプレゼンテーションイベント、PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭 2015 のプレイベント、ALIA 国際会議 2013 など大人数を対象としたイベント会場としても利用され、学内外から多くの人々が訪れた。

・芸術文化情報センター

芸術文化情報センターでは学生の就業力育成の教育改革に対応するため、1)しごと研究、卒業生のしごと、学科・コース架の強化(通年)、2)授業と連携した検索指導、図書館活用指導の強化(通年)、3)学内催事、展示企画とタイアップした展示企画等を実施し、通学部1,2 回生を中心に、前年度に引き続いてほとんどの学科が通常利用における入館者数、貸出件数を微増させている。

しかしながら、年間利用者数は 106,502 名(内在学生は延べ 89,925 名、開館日数 306 日)で、入館者数は前年比 11%の減少であった。通学部では在校生のほぼ全員が個人 PC を所有する状況下で、PC 利用目的での入館者数の減少、通信教育部では居住地域での図書館利用促進策の奏功による減少などが主たる要因である。なお、大学科目の履修が可能となった専門学校生は増加、自習環境を自施設内のラウンジ中心にシフトした日本語学校生は減少であった。

IX. 震災復興支援

平成 25 年度は、ふたつの制度(①ボランティア参加の際の交通費補助、②学生企画での特別活動補助)を設けて学生に呼びかけた。①は、宮城県石巻市内にある地元の復興団体と東北芸術工科大学などと共同でスマイルエンジンプロジェクトという被災地復興支援を行なった。今回は3年目となり、蛤浜で、震災や鉄砲水で荒れた森を整備し、復興のためのキャンプ場を開く準備を行なった。また、若者が集まる機会でもあり、地元住民と震災に備える勉強会も実施した。②は、宮城県女川町で地元NPO団体と協力しコンテナカフェを企画運営し、子どもから年配の方まで仮設住宅で暮らす方々へ地域のコミュニティを深めるためのイベントとした。

X. 施設改修中期計画

平成 25 年度は瓜生山学園 40 周年に向けた「キャンパスプラン」の整備 2 年目であり、松麟館非構造部材耐震工事、直心館非構造部材耐震工事を前年度からの継続事業として完了させた。また、一連の工事のための各種工房整備や駐輪場整備についても実施し、キャンパスプラン推進のための基盤整備を行った。また平成 26 年度にまたがる事業として、創々館改築工事に向けた解体工事に着手。その他、平成 26 年度着手予定の興心館耐震工事、劇場天井耐震工事等の準備作業を行った。

① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

【2007 ～ 2010年度の入学者】

大学等	学部・研究科等	学科・専攻等	コース・領域等
京都造形芸術大学	芸術学部	芸術表現・アートプロデュース学科	芸術表現・アートプロデュースコース
			クリエイティブ・ライティングコース
		歴史遺産学科	文化遺産コース
			文化財保存修復コース
		映画学科	映画監督コース
			映画技術コース
			プロデュースコース
			映画俳優コース
		舞台芸術学科	舞台芸術コース
			演技演出コース
			ダンスコース
			舞台デザインコース
		美術工芸学科	日本画コース
			洋画コース
			立体造形コース
			陶芸コース
			染織テキスタイルコース
		こども芸術学科	こども芸術コース
		キャラクターデザイン学科	アニメディレクションコース
			キャラクターデザインコース
			CGデザインコース
		情報デザイン学科	コミュニケーションデザインコース
			イラストレーションコース
			映像メディアコース
			プランニングディレクションコース
			先端アートコース
		空間演出デザイン学科	空間デザインコース
ファッションデザインコース			
プロダクトデザインコース			
環境デザイン学科	環境デザインコース		
	建築デザインコース		
	インテリアデザインコース		
	ランドスケープデザインコース		

① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

【2011年度からの入学者】

大学等	学部・研究科等	学科・専攻等	コース・領域等
京都造形芸術大学	芸術学部	美術工芸学科	日本画コース
			油画コース
			染織テキスタイルコース
			現代美術コース
			総合造形コース
			写真コース
		マンガ学科	マンガコース
		キャラクターデザイン学科	アニメディレクションコース
			キャラクターデザインコース
			CGデザインコース
		情報デザイン学科	コミュニケーションデザインコース
			イラストレーションコース
			映像メディアコース
			先端表現デザインコース
		プロダクトデザイン学科	生産デザインコース
			くらしプロダクトコース
		空間演出デザイン学科	空間デザインコース
			ファッションデザインコース
			ジュエリー&アクセサリーコース
		環境デザイン学科	建築コース
			インテリアデザインコース
			ランドスケープデザインコース
		映画学科	映画監督コース
			映画技術コース
			プロデュースコース
			映画俳優コース
		舞台芸術学科	演技演出コース
舞台デザインコース			
ダンスコース			
文芸表現学科	クリエイティブ・ライティングコース		
芸術表現・アートプロデュース学科	芸術表現・アートプロデュースコース		
こども芸術学科	こども芸術コース		
歴史遺産学科	文化財保存修復コース		
	文化遺産コース		

① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

【2013年度からの入学者】

大学等	学部・研究科等	学科・専攻等	コース・領域等
京都造形芸術大学	芸術学部	美術工芸学科	日本画コース
			油画コース
			染織テキスタイルコース
			現代美術コース
			総合造形コース
		マンガ学科	ストーリーマンガコース
		キャラクターデザイン学科	キャラクターデザインコース
		情報デザイン学科	情報デザインコース
			イラストレーションコース
		プロダクトデザイン学科	プロダクトデザインコース
		空間演出デザイン学科	空間デザインコース
			ファッションデザインコース
		環境デザイン学科	建築・インテリア・環境デザインコース
		映画学科	映画製作コース
			俳優コース
		舞台芸術学科	演技・演出コース
			舞台デザインコース
		文芸表現学科	クリエイティブ・ライティングコース
		芸術表現・アートプロデュース学科	芸術表現・アートプロデュースコース
		こども芸術学科	こども芸術コース
歴史遺産学科	文化財保存修復・歴史文化コース		

① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

【2014年度からの入学者】

大学等	学部・研究科等	学科・専攻等	コース・領域等
京都造形芸術大学	芸術学部	美術工芸学科	日本画コース
			油画コース
			染織テキスタイルコース
			現代美術コース
			総合造形コース
		マンガ学科	ストーリーマンガコース
		キャラクターデザイン学科	キャラクターデザインコース
		情報デザイン学科	情報デザインコース
			イラストレーションコース
		プロダクトデザイン学科	プロダクトデザインコース
		空間演出デザイン学科	空間デザインコース
			ファッションデザインコース
		環境デザイン学科	建築・インテリア・環境デザインコース
		映画学科	映画製作コース
			俳優コース
		舞台芸術学科	演技・演出コース
			舞台デザインコース
		文芸表現学科	クリエイティブ・ライティングコース
		アートプロデュース学科	アートプロデュースコース
		こども芸術学科	こども芸術コース
歴史遺産学科	文化財保存修復・歴史文化コース		

① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

【通信教育部及び大学院】

大学等	学部・研究科等	学科・専攻等	コース・領域等
京都造形芸術大学	通信教育部芸術学部	芸術学科	芸術学コース
			歴史遺産コース
			文芸コース
			和の伝統文化コース
		美術科	日本画コース
			洋画コース
			陶芸コース
			染織コース
			写真コース
		デザイン科	情報デザインコース
	建築デザインコース		
	ランドスケープデザインコース		
	空間演出デザインコース		
	芸術研究科	芸術専攻（博士後期課程）	
芸術文化研究専攻（修士課程）			
芸術表現専攻（修士課程）			
芸術研究科（通信教育）		芸術環境専攻（修士課程）	芸術環境研究領域
		美術・工芸領域	
		環境デザイン領域	

② 教員組織及び教員の保有学位、業績に関する情報

下記リンク先に記載

<http://www.kyoto-art.ac.jp/info/teacher/>

③ 学生に関する情報

学部・学科の学生定員及び在籍学生数

学部	学 科	入学 者数	編入学者数		収容 定員	入学 定員	編入学定員		在学 者数	在 籍 学 生 数				編入学 生数 (内数)	男女比率 男：女	卒業者数		進学 者数	就職 者数	備考
			2年次	3年次			2年次	3年次		1年次	2年次	3年次	4年次			9月卒業	3月卒業			
										学生数	学生数	学生数	学生数							
芸術学部	美術工芸学科	166	1	2	587	145	1	2	620	171	152	156	141	8	2:8	/	/	/	/	2011年度入学生からの課程
	マンガ学科	49	0	1	187	45	1	2	187	49	56	40	42	1	4:6	/	/	/	/	
	キャラクターデザイン学科	77	1	2	215	58	1	2	281	79	83	68	51	5	3:7	/	/	/	/	
	情報デザイン学科	125	0	2	475	115	1	6	497	131	130	121	115	6	2:8	/	/	/	/	
	プロダクトデザイン学科	51	0	1	167	40	1	2	179	52	47	44	36	5	5:5	/	/	/	/	
	空間演出デザイン学科	62	2	1	207	50	1	2	231	63	66	53	49	6	2:8	/	/	/	/	
	環境デザイン学科	55	1	3	187	45	1	2	217	56	58	51	52	7	5:5	/	/	/	/	
	映画学科	85	0	0	267	65	1	2	300	86	76	72	66	0	5:5	/	/	/	/	
	舞台芸術学科	57	0	0	147	35	1	2	179	61	42	38	38	0	2:8	/	/	/	/	
	文芸表現学科	35	1	0	107	35	0	0	143	36	36	45	26	1	4:6	/	/	/	/	
	芸術表現 ・アートプロデュース学科	-	1	2	62	20	0	1	70	-	26	31	13	3	3:7	/	/	/	/	
	こども芸術学科	21	0	0	127	30	1	2	98	23	20	29	26	0	2:8	/	/	/	/	
	歴史遺産学科	32	0	1	122	30	0	1	138	33	39	38	28	3	2:8	/	/	/	/	
	アートプロデュース学科	28	-	-	25	25	0	1	28	28	-	-	-	-	3:7	/	/	/	/	2014年度入学生からの課程
	芸術表現 ・アートプロデュース学科	-	/	/	-	-	-	-	11	-	2	1	8	0	-	3	34	7	15	2007～2010年度入学生の課程 (2年次編入学は2011年度、3年 次編入学は2012年度まで受け入 れ)
	歴史遺産学科	-	/	/	-	-	-	-	6	-	0	0	6	1	-	2	35	4	24	
	映画学科	-	/	/	-	-	-	-	7	-	0	0	7	0	-	3	66	2	41	
	舞台芸術学科	-	/	/	-	-	-	-	1	-	0	0	1	0	-	2	33	1	18	
	美術工芸学科	-	/	/	-	-	-	-	14	-	0	1	13	1	-	2	149	31	79	
	こども芸術学科	-	/	/	-	-	-	-	1	-	0	1	0	0	-	1	36	2	31	
キャラクターデザイン学科	-	/	/	-	-	-	-	10	-	0	0	10	0	-	0	43	1	37		
情報デザイン学科	-	/	/	-	-	-	-	10	-	0	2	8	1	-	0	107	6	87		
空間演出デザイン学科	-	/	/	-	-	-	-	7	-	0	0	7	0	-	2	93	2	72		
環境デザイン学科	-	/	/	-	-	-	-	5	-	0	1	4	0	-	0	41	5	27		
芸術学部計		843	7	15	2,882	738	10	27	3,240	868	833	792	747	48	3:7	15	637	61	431	

③ 学生に関する情報

芸術学部	教員一人当たり学生数：18.73人 収容定員充足率：112.42% 社会人学生数：社会人入学試験制度は実施していない
	<p>【アドミッション・ポリシー：求める学生像および入学者選抜の基本方針】 本学は「芸術的創造と哲学的思索によって良心を手腕に運用する新しい人間観、世界観の創造」という建学理念を掲げて設立された。この建学の理念から導かれる教育目標を「芸術を社会に活かすことのできる人材の育成」としている。</p> <p>芸術教育は、ともすれば自己表現の達成に重点が置かれがちであるが、社会で通用する人材として活動していくためには、専門的な能力以上に、社会人として求められる基礎力、人間力を身につける必要がある。そのため 1. 芸術によって社会に貢献しようとする高い志と意欲を持ち、2. 自立した1人の人間として、3. 他者と協調・協働しながら、4. 芸術的創造活動を展開できる力を養うことをめざし、学生への徹底をはかっている。</p> <p>アドミッション・ポリシーの基本は、このことを実践できる基本的素養を備えた学生を受け入れることにありとし、「芸術を学ぶ意欲と社会貢献をめざす高い使命感をもった学生の受け入れ」をアドミッション・ポリシーとして定めた。そのため、表現技術の優劣だけにとらわれず、評価基準の異なる複数の入学試験を実施して多様な学生を選抜している。</p> <p>【2014年度入学試験受け入れ方針】 〈夏期コミュニケーション入学・秋期コミュニケーション入学〉 1. 京都造形芸術大学で自分の可能性を伸ばす意欲のある人 2. あらゆる役割の中でクラスを中心となり引っ張っていける人 3. 常に向上心を持ち、何事にも積極的に取り組むことのできる人 4. 他者の意見にも耳を傾け、良好なコミュニケーションをとることができる人 5. これまでの生活（高校生活など）をしっかりと生きてきた人</p> <p>〈公募制推薦入学試験・一般入学試験・体験授業型一般入学試験〉 1. 京都造形芸術大学で学ぶに必要な基礎的な知識・技術を持った人 2. 知識・技術を習得するために努力してきた人 3. これまでの生活（高校生活など）をしっかりと生きてきた人</p> <p>〈大学入試センター試験利用入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）〉 1. 基礎教養を持ち、学力の高い人 2. 勉学に積極的に取り組んできた人 3. これまでの生活（高校生活など）をしっかりと生きてきた人</p>
	<p>【卒業後の進路（主な就職分野〔具体的な就職先等〕）】 株式会社電通北海道、株式会社コナミデジタルエンタテインメント、住友林業株式会社、山越株式会社、上新電機株式会社、株式会社ノバレーゼ、東北芸術工科大学、公益財団法人美術院、静岡県警、タマホーム、しぜんの国保育園、株式会社スギタブリディア、株式会社ゆう工房、45rpm studio株式会社、シバハラ株式会社、株式会社平成建設、株式会社トゥモローランド 他</p>

③ 学生に関する情報

学部・学科の学生定員及び在籍学生数

学部	学 科	入学 者数	編入学者数		収容 定員	入学 定員	編入学定員		在学 者数	在 籍 学 生 数				編入学 生数 (内数)	男女比率 男：女	卒業者数		進学 者数	就職 者数	備考
			2年次	3年次			2年次	3年次		1年次	2年次	3年次	4年次			9月卒業	3月卒業			
										学生数	学生数	学生数	学生数							
芸術学部 通信教育部	芸術学科	103	10	168	520	80	10	85	1,263	104	107	260	792	680	2：8	/	118	—	—	9月卒業は導入していない
	美術科	140	205	26	1,420	200	200	10	1,672	140	328	316	888	849	3：7		183	—	—	
	デザイン科	188	7	386	1,230	200	10	200	2,174	191	158	488	1,337	1,346	4：6		111	—	—	
	芸術教養学科	198	—	215	1,380	230	0	230	977	198	283	215	281	496	4：6		—	—	—	
	通信教育部 芸術学部計	629	222	795	4,550	710	220	525	6,086	633	876	1,279	3,298	3,371	3：7		412	—	—	
教員一人当たり学生数：124.20人 収容定員充足率：133.76% 社会人学生数：5,417名																				
【入学に関する基本的な方針】 <芸術学科>文化芸術という行為に 関心を持ち、それぞれの生きる場でありながら他者と協力して問題を考えていく人の入学を期待しています。 <美術科>美術工芸の各専門分野に関心があり、地域、年齢、職業を超えた交流を積極的に推進する人材を求めます。 <デザイン科>ものづくりやデザインに関心を持ち、柔軟な思考で未来を切り開く意欲のある人の入学を期待しています。 <芸術教養学科>人類の芸術遺産とそれに関わる学術的営みを尊重し、みずから学ぶ手段を身につける意欲のある者。特にインターネットを通じた学習が可能な者を受け入れる。																				
【卒業後の進路（主な就職分野〔具体的な就職先等〕）】 進路調査は行っていない。																				

③ 学生に関する情報

大学院研究科の学生定員及び在籍学生数

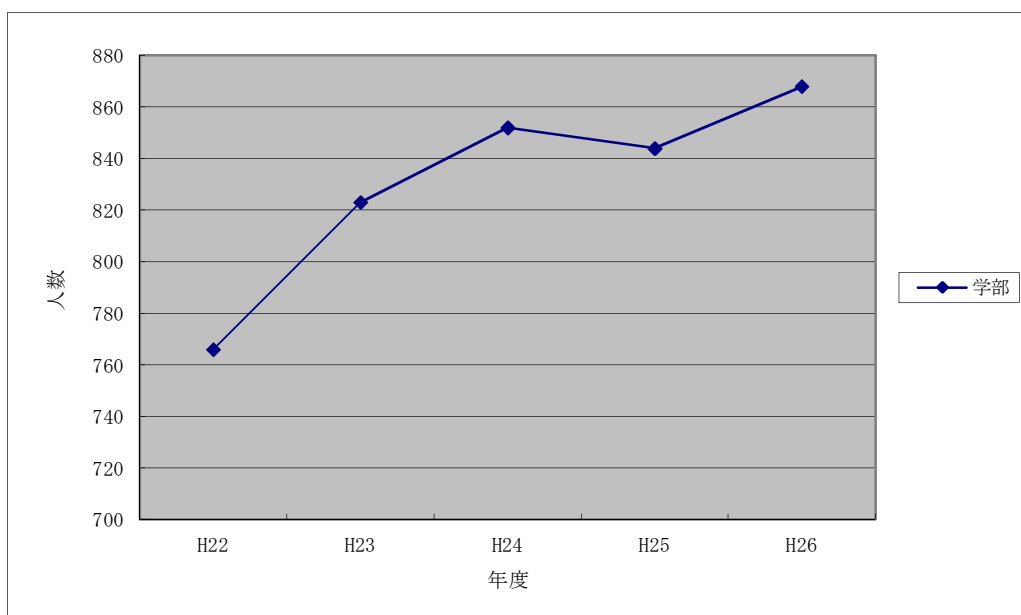
研究科	専攻	入学 者数	収容定員		入学定員		在学 者数	在籍学生数								男女比率 男：女	卒業 者数	進学 者数	就職 者数	備考
			修士 課程	博士 課程	修士 課程	博士 課程		修士課程				博士課程								
								一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計					
	芸術文化研究専攻	9	24	—	12	—	15	14	0	1	15	—	—	—	—	1:4	12	1	4	学位授与数/12名 授与率 /100%
	芸術表現専攻	66	96	—	48	—	136	87	0	49	136	—	—	—	—	11:23	62	4	33	学位授与数/62名 授与率 /100%
	芸術専攻	5	—	21	—	7	19	—	—	—	—	12	0	7	19	6:13	4	—	2	学位授与数/5名 授与率 /100%
	芸術研究科計	80	120	21	60	7	170	101	0	50	151	12	0	7	19	53:117	78	5	39	
教員一人当たり学生数：1.40人 収容定員充足率：120.57% 社会人学生数：0人																				
芸術 研究 科	<p>【入学に関する基本的な方針】 博士課程 (1) 専門領域における広範かつ深淵な知見を有し、かつ新たな価値観の構築にむけて真摯に取り組む姿勢を有していること。 (2) 基本的には3年間で日本語による博士論文を完成させうる研究計画と遂行力を有していること。 (3) 外国語（基本的に英語）による専門的語学力を有していること。</p> <p>修士課程（芸術文化研究専攻） (1) 豊かな感性と柔軟な思考を有し、基本的には2年間で修士論文を完成させうる研究能力を有していること。 (2) 芸術文化に関する基礎的な教養を有し、的確で論理的な語学力（会話及び文章）を有していること。 (3) 外国語（基本的に英語）の基本的な読解力・表現力を有していること。</p> <p>修士課程（芸術表現専攻） (1) 学士課程の基礎制作をふまえ、各自の表現領域を構築し、造形思想を深めるための能力を有していること。 (2) 芸術表現に関する基礎的な教養を有し、的確で論理的な文書作成能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有していること。 (3) 外国語（基本的に英語）の基本的な読解力・表現力を有していること。</p>																			
	<p>【卒業後の進路（主な就職分野【具体的な就職先等】）】 朝日新聞社、一般社団法人天野山文化遺産研究所、ファミリーイナダ株式会社、大東建託株式会社、株式会社スペース、株式会社ディンプス 等</p>																			

③ 学生に関する情報

大学院研究科の学生定員及び在籍学生数

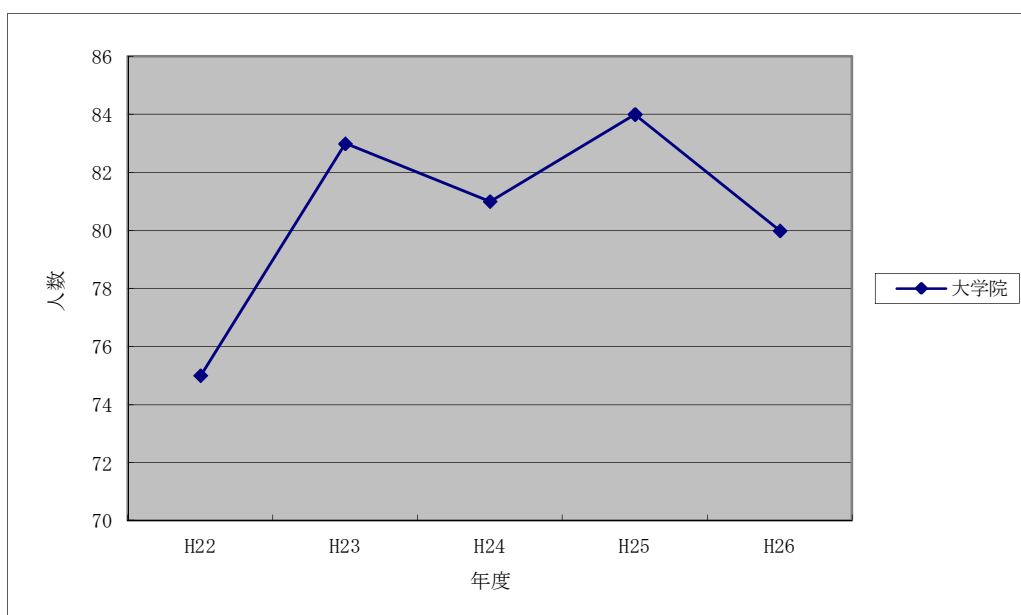
研究科	専攻	入学 者数	収容定員		入学定員		在学 者数	在籍学生数								男女比率 男：女	卒業 者数	進学 者数	就職 者数	備考
			修士 課程	博士 課程	修士 課程	博士 課程		修士課程				博士課程								
								一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計					
芸術研究科 (通信教育)	芸術環境専攻 (修士課程)	81	160	—	80	—	176	176	—	—	176	—	—	—	—	4：6	74	—	—	学位授与数／74名 授与率 ／100%
	芸術研究科 (通信教育) 計	81	160	—	80	—	176	176	—	—	176	—	—	—	—	4：6	74	—	—	
	教員一人当たり学生数：19.6人 収容定員充足率：110.0%																			
	【入学に関する基本的な方針】 文化芸術に関心を寄せ、さらに一步踏み込んで文化芸術の当事者たれんとする意思を備えた人の入学を期待する。 1、専門分野の学びはもちろん、人間・自然・社会の諸事象についての学びをおろそかにしない人。 2、ベーシックなトレーニングをいとわない人。 3、自分が生活する地域から学び、学びの成果を地域に返していこうとする人。																			
【卒業後の進路（主な就職分野〔具体的な就職先等〕）】 進路調査は行っていない。																				

通学部入学者推移（5ヵ年）



(単位：人)

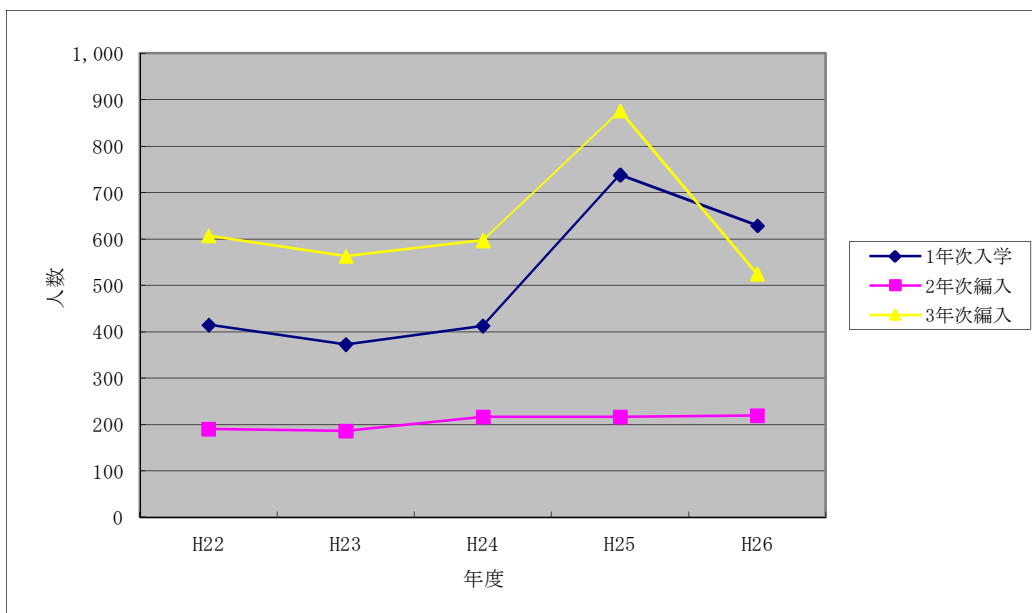
	H22	H23	H24	H25	H26
学部	766	823	852	844	868



(単位：人)

	H22	H23	H24	H25	H26
大学院	75	83	81	84	80

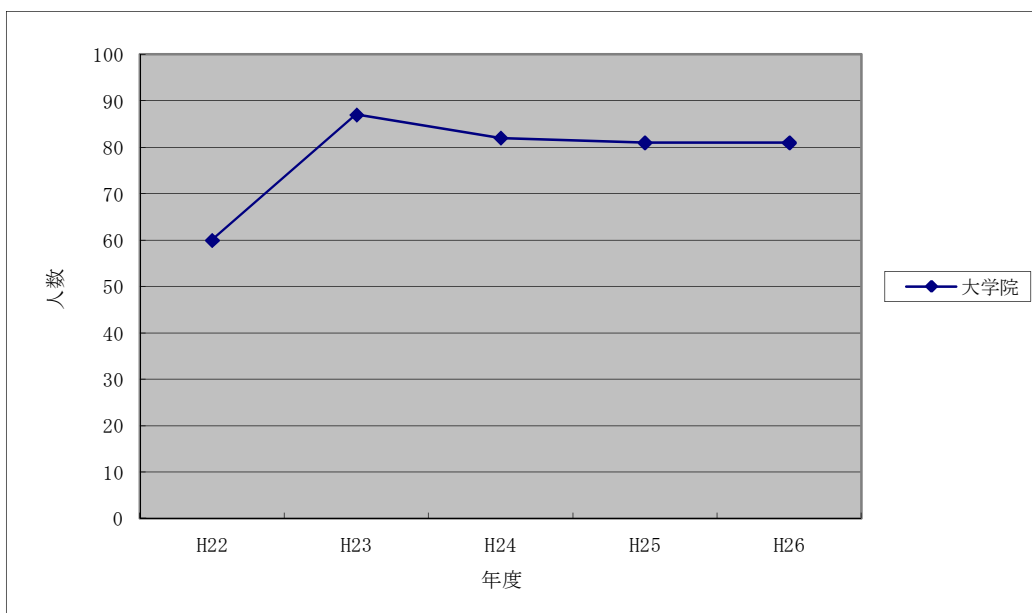
通信教育部 入学者推移 (5ヵ年)



(単位：人)

学部	H22	H23	H24	H25	H26
1年次入学	415	373	413	738	629
2年次編入	191	187	217	217	220
3年次編入	607	563	597	876	525

※ 入学確定者数のため、5月1日現在の学生数との間に差異が生じる場合があります。



(単位：人)

	H22	H23	H24	H25	H26
大学院	60	87	82	81	81

④ 教育課程に関する情報

【通学部】

在学生専用サイトに情報を掲載

<http://www.kyoto-art.ac.jp/student/teaching/syllabus.html>

【通信教育部】

電子シラバスとして一部をホームページ上で公開

http://kirara.cyber.kyoto-art.ac.jp/syllabus_and_documents/syllabus_open/index.php

■2007～2010年度入学生の要件(2007年度入学生は、4年次単位数のみの進級要件を設定)

*編入生はみなし入学年とする

	学部・学科 年次	芸術学部									
		芸術表現・アート・パフォーマンス学科		歴史遺産学科		映画学科		舞台芸術学科		美術工芸学科	
		単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄
年間履修登録単位数の上限	1～4年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—
進級の要件 (単位数)	2年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	「舞台表現基礎Ⅰ」「舞台表現基礎Ⅱ」を修得済みのこと。	30単位	「美術基礎ⅠⅡⅢⅣ」のうち12単位以上を修得済みのこと。
	3年次	54単位	1年次必修専門科目を修得済みのこと。但し、2年次編入の場合は上記要件は適用されない。	48単位	必修専門科目1科目を修得済みのこと。	46単位	—	なし	「舞台芸術Ⅱ」を修得済みのこと。	62単位	「美術基礎ⅠⅡⅢⅣ」と他の専門科目の合計24単位以上を修得済みのこと。但し、2年次編入生は専門科目の合計16単位以上を修得済みのこと。
	4年次	90単位	—	90単位	—	90単位	—	90単位	—	90単位	—
卒業の要件 (単位数)		124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上

	学部・学科 年次	芸術学部											
		こども芸術学科		キャラクターデザイン学科		情報デザイン学科		空間演出デザイン学科		環境デザイン学科			
										2009・2010年度生		2007・2008年度生	
		単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄
年間履修登録単位数の上限	1～4年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—
進級の要件 (単位数)	2年次	20単位	専門科目20単位以上修得済みのこと。	なし	—	16単位	1年次必修専門科目を含んで、専門科目合計16単位以上修得済みのこと。	なし	—	なし	「デザイン基礎Ⅰ」「デザイン基礎Ⅲ」を修得済みのこと。	なし	「デザイン基礎Ⅰ」「デザイン基礎Ⅱ」「測量演習」を修得済みのこと。但し、2007年度入学生には上記要件は適用されない。
	3年次	40単位	専門科目40単位(2年次編入生は30単位)以上修得済みのこと。	なし	「CG技法Ⅰ」「CG技法Ⅱ」を修得済みのこと。	32単位	2年次必修専門科目を含んで、専門科目合計32単位(2年次編入生は16単位)以上修得済みのこと。	なし	「デザイン基礎Ⅱ」を修得済みのこと。	なし	「環境デザインⅠ」「環境デザインⅡ」「環境デザインⅢ」を修得済みのこと。	なし	「環境デザインⅠ」「環境デザインⅡ」「環境デザインⅢ」を修得済みのこと。但し、2007年度入学生には上記要件は適用されない。
	4年次	90単位	—	90単位	「キャラクターアニメーションⅡ」を履修済みのこと。	90単位	3年次必修専門科目を含んで専門科目合計48単位(2年次編入生は32単位、3年次編入生は16単位)以上修得済みのこと。	90単位	—	90単位	「環境計画Ⅰ」「環境計画Ⅱ」「環境計画Ⅲ」を修得済みのこと。	90単位	「環境計画Ⅰ」「環境計画Ⅱ」を修得済みのこと。但し、2007年度入学生には上記要件は適用されない。
卒業の要件 (単位数)		124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目68単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目65単位以上

⑤ 学修の成果に係る評価および卒業の認定に当たっての基準に関する情報

年間履修登録単位数の上限と進級、卒業（修了）要件（単位数）

	学部・学科 年次	芸術学部通信教育部							
		芸術学科		美術科		デザイン科		芸術教養学科	
		単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄
年間履修登録単位数の上限	1～4年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—
進級の要件 (単位数)	2年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—
	3年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—
	4年次	90単位 [3年次編入生は32単位以上]	専門教育科目 (T科目:20単位以上 S科目:18単位以上) 「論文研究1.2」必修*1	90単位 [2年次編入学生は50単位以上]	学部共通専門教育科目:8単位以上 コース専門演習T科目:12単位以上 コース専門演習S科目:18単位以上	80単位(ランドスケープデザインコースは90単位以上) [3年次編入学生は36単位以上(建築デザインコースの3年次編入学生は40単位以上)]	学部共通専門教育科目:8単位以上(建築デザインコースは12単位以上)*2 コース専門演習T科目:16単位以上 コース専門演習S科目:12単位以上	122単位	「卒業研究」履修までに、 総単位数:122単位以上 (専門教育科目58単位以上 (うちWebスクリーニング科目30単位以上)合格済み)
卒業の要件 (単位数)	124単位 (S科目:30単位以上) [3年次編入生は62単位以上]	専門教育科目:60単位以上 (T科目:28単位以上、S科目:24単位以上) 「論文研究1.2」「卒業研究」必修*1	124単位 (S科目:30単位以上) [2年次編入学生は84単位以上]	学部共通専門教育科目:20単位以上 [2年次編入学生は12単位以上] 「造形基礎演習1.2」必修 コース専門演習T科目:16単位以上 コース専門演習S科目:24単位以上	124単位 (S科目:30単位以上) [3年次編入生は62単位以上(建築デザインコースの3年次編入生は70単位以上)]	学部共通専門教育科目:12単位以上(建築デザインコースは22単位以上)*3 コース専門演習T科目:24単位以上 コース専門演習S科目:24単位以上	124単位 [3年次編入生は62単位以上]	専門教育科目(学部共通専門教育科目、学科専門教育科目):60単位以上 (うちWebスクリーニング科目30単位以上) 「卒業研究」必修	

*1歴史遺産コースは上記に加え「京都学」「史料演習」必修

*2:建築デザインコースの新カリキュラム【2009年度(1年次入学)、2010年度(1年次入学、2年次編入生)】は、「住宅概論」「都市概論」「建築史1(近代)」「建築史2(西洋)または建築史3(日本)」「建築環境工学」「建築材料」「建築設備」「建築生産」「建築法規」「構造力学1・2」の12単位選択必修。旧カリキュラムは「デザイン論」「建築計画論2」「建築史」「構造力学1・2」「建築材料・構法」「環境の保全と計画」の12単位選択必修。

ランドスケープデザインコースは、「環境の保全と計画」必修、「都市概論」、「建築史1」、「建築史2」、「建築材料」、「造園史」、「ランドスケープデザイン原論」から4単位選択必修
空間演出デザインコースの新カリキュラム【2010年度以降の全入学生】は、「マーケティング論」「インテリア計画論1」「生活空間デザイン史」が必修。旧カリキュラム「マーケティング論」「建築計画論1」が必修。

*3:建築デザインコースの新カリキュラム【2009年度(1年次入学)、2010年度(1年次入学、2年次編入生)】は、「住宅概論」「都市概論」「建築史1(近代)」「建築史2(西洋)または建築史3(日本)」「建築環境工学」「建築材料」「建築設備」「建築生産」「建築法規」「構造力学1・2」が必修。旧カリキュラムは「デザイン論」「建築計画論2」「建築史」「構造力学1・2」「建築材料・構法」「環境の保全と計画」が必修。

ランドスケープデザインコースは、「環境の保全と計画」必修、「都市概論」、「建築史1」、「建築史2」、「建築材料」、「造園史」、「ランドスケープデザイン原論」から8単位選択必修
空間演出デザインコースの新カリキュラム【2010年度以降の全入学生】は、「マーケティング論」「インテリア計画論1」「生活空間デザイン史」「インテリア計画論2」「空間構成材料」が必修。旧カリキュラムは、「マーケティング論」「建築計画論1」「空間論」が必修。

⑥ 学習環境に関する情報

大学等	キャンパス	学部・研究科	所在地	主な交通手段	
京都造形芸術大学	瓜生山キャンパス	芸術学部 通信教育部芸術学部 芸術研究科 芸術研究科(通信教育部)	京都市左京区北白川瓜生山2-116	叡山電鉄 茶山駅下車 徒歩約15分 京都市バス 上終町京都造形芸術大学前 下車すぐ	
		【キャンパスの概要】 敷地面積が約66,000㎡で正面が幹線道路に面し、水景を配した大階段と柱を配したファサードで、開放的なピロティを有するキャンパスとなっている。			
		【運動施設の概要】 瓜生山キャンパスから約4Km北に位置する敷地面積、約18,500㎡の岩倉グラウンドと、体育館は瓜生山キャンパス内に広さ約980㎡で、バスケットコート2面、バレーボールコート2面を有している。			
	上終キャンパス	芸術学部 通信教育部芸術学部 芸術研究科 芸術研究科(通信教育部)	京都市左京区北白川上終町7-1	叡山電鉄 茶山駅下車 徒歩約15分 京都市バス 上終町京都造形芸術大学前 下車すぐ	
		【キャンパスの概要】 瓜生山キャンパスと幹線道路を挟んだ向かい側にあり、敷地面積は約550㎡で2棟の校舎があるキャンパスとなっている。			
		【運動施設の概要】 運動施設は有していない。			
	高原キャンパス	芸術学部 通信教育部芸術学部 芸術研究科 芸術研究科(通信教育部)	京都市左京区北白川高原町25	叡山電鉄 茶山駅下車 徒歩約5分 京都市バス 高原町 下車すぐ	
		【キャンパスの概要】 瓜生山キャンパスから西方に約500mはなれた場所に位置し、敷地面積は約1,900㎡で4棟の建物は専用の撮影スタジオを備える映画学科の施設である。			
		【運動施設の概要】 運動施設は有していない。			
	キャンパスマップ		http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/access/campusmap/		
アクセスマップ		http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/access/#kyoto			
外苑キャンパス	芸術学部 通信教育部芸術学部 芸術研究科 芸術研究科(通信教育部)	東京都港区北青山1-7-15	JR総武線 信濃町駅下車 徒歩約5分 東京メトロ 青山一丁目 徒歩約8分		
	【キャンパスの概要】 明治神宮外苑の一角に位置しており、敷地面積は約4,100㎡。都心でありながら木々に囲まれた非常に恵まれた学習環境となっている。				
	【運動施設の概要】 運動施設は有していない。				
アクセスマップ		http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/access/#tokyo			
大阪サテライトキャンパス	芸術学部 通信教育部芸術学部 芸術研究科 芸術研究科(通信教育部)	大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル5階	地下鉄御堂筋線・阪神「梅田駅」より 徒歩3分 地下鉄谷町線「東梅田駅」より 徒歩3分 JR「大阪駅」より 徒歩5分 阪急「梅田駅」より 徒歩5分		
	【キャンパスの概要】 大阪市内の中心に位置し、交通の便にも恵まれた立地環境にある。教室面積は約470㎡。				
	【運動施設の概要】 運動施設は有していない。				
アクセスマップ		http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/access/#osaka			
【課外活動の状況】 31の団体がクラブ連盟に登録している(体育系10・文科系21、正加盟24・準加盟7)。活動日および活動場所は団体ごとに設定されており、主にクラブボックス(有終館)、教室、講堂、グラウンド等で活動している。活動頻度は週1～2回のところが多い。					

⑦ 学生納付金に関する情報

学部・学科の学生定員及び在籍学生数

学部	学 科	入学金		授業料		施設費		その他の費用徴収		備考
		金額	納入期限	金額	納入期限	金額	納入期限	金額	納入期限	
芸術学部	美術工芸学科	200,000円	2014.3.18	1,320,000円	2014.3.18	300,000円	2014.3.18	19,660円	2014.3.18	<ul style="list-style-type: none"> ・入学金及び、その他の費用徴収のうち学生保険料(4,660円)については初年度のみ。 ・授業料、施設費は一括納入の場合の期日。前期・後期分納の場合、半期分を納入した上で、残額を9月20日までに納入すること。(※入試制度ごとの細かな設定日があるため、1年次の一括して最も遅い期日を記入) ・2年次以降は前期授業開始前日が納入期限(但し振替の場合は3月20日)。前期・後期分納の場合、半期分を納入した上で、残額を9月20日までに納入すること。 <p>【授業料減免制度の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■減免対象の種類・要件 学費減免制度として、1人20万円を60名に、10万円を20名に給付。学力基準、家計基準を満たした希望者のうち、困窮度の高い学生から採用する。 ■必要手続等 9月中旬願書配布、10月初旬提出締切。教学事務室窓口で配布される願書を受取り、記入後必要書類とともに提出。
	マンガ学科	200,000円	2014.3.18	1,320,000円	2014.3.18	300,000円	2014.3.18	19,660円	2014.3.18	
	キャラクターデザイン学科	200,000円	2014.3.18	1,320,000円	2014.3.18	350,000円	2014.3.18	19,660円	2014.3.18	
	情報デザイン学科	200,000円	2014.3.18	1,320,000円	2014.3.18	300,000円	2014.3.18	19,660円	2014.3.18	
	プロダクトデザイン学科	200,000円	2014.3.18	1,320,000円	2014.3.18	300,000円	2014.3.18	19,660円	2014.3.18	
	空間演出デザイン学科	200,000円	2014.3.18	1,320,000円	2014.3.18	300,000円	2014.3.18	19,660円	2014.3.18	
	環境デザイン学科	200,000円	2014.3.18	1,320,000円	2014.3.18	300,000円	2014.3.18	19,660円	2014.3.18	
	映画学科 1年次	200,000円	2014.3.18	1,320,000円	2014.3.18	330,000円	2014.3.18	19,660円	2014.3.18	
	映画学科 2年次	—	—	1,320,000円	2014.4.8	330,000円	2014.4.8	15,000円	2014.4.8	
	映画学科 3、4年次	—	—	1,320,000円	2014.4.8	300,000円	2014.4.8	15,000円	2014.4.8	
	舞台芸術学科	200,000円	2014.3.18	1,320,000円	2014.3.18	300,000円	2014.3.18	19,660円	2014.3.18	
	文芸表現学科	200,000円	2014.3.18	1,050,000円	2014.3.18	100,000円	2014.3.18	19,660円	2014.3.18	
	アートプロデュース学科	200,000円	2014.3.18	1,050,000円	2014.3.18	100,000円	2014.3.18	19,660円	2014.3.18	
	こども芸術学科	200,000円	2014.3.18	1,320,000円	2014.3.18	300,000円	2014.3.18	19,660円	2014.3.18	
	歴史遺産学科 1年次	200,000円	2014.3.18	1,050,000円	2014.3.18	130,000円	2014.3.18	19,660円	2014.3.18	
	歴史遺産学科 2年次	—	—	1,050,000円	2014.4.8	130,000円	2014.4.8	15,000円	2014.4.8	
	歴史遺産学科 3、4年次(文化遺産コース)	—	—	1,050,000円	2014.4.8	100,000円	2014.4.8	15,000円	2014.4.8	
歴史遺産学科 3、4年次(文化財保存修復コース)	—	—	1,050,000円	2014.4.8	200,000円	2014.4.8	15,000円	2014.4.8		
通信教育学部	芸術学科	30,000円	2014.4.15	231,000円	2014.4.15	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・本学園卒業生は入学金を免除。 ・入学金については初年度のみ。 ・2年次以降の授業料については2月末が納入期限。 ・スクーリング受講料、単位修得試験料は、受講・受験許可後に別途口座引落。 <p>【授業料減免制度の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■減免対象の種類・要件 学習が通算5年目以上となる場合に授業料を2割減免。 年限退学時再入学者・卒業後再度入学者について授業料を2割減免。
	美術科(日本画・洋画)	30,000円	2014.4.15	277,000円	2014.4.15	—	—	—	—	
	美術科(陶芸・染織)	30,000円	2014.4.15	300,000円	2014.4.15	—	—	—	—	
	美術科(写真)	30,000円	2014.4.15	323,000円	2014.4.15	—	—	—	—	
	デザイン科	30,000円	2014.4.15	323,000円	2014.4.15	—	—	—	—	
芸術教養学科	30,000円	2014.4.15 (前期入学) 2014.10.15 (後期入学)	170,000円	2014.4.15 (前期入学) 2014.10.15 (後期入学)	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・本学園卒業生は入学金を免除。 ・入学金については初年度のみ。 ・2年次以降の授業料については3月20日(前期入学)、10月20日(後期入学)が納入期限。 	

⑦ 学生納付金に関する情報

学部・学科の学生定員及び在籍学生数

研究科	専攻	入学金		授業料		施設費		その他の費用徴収		備考
		金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期	
芸術研究科	芸術文化研究専攻	200,000円	前期日程 2013.12.1 2 後期日程 2014.2.25	927,000円	前期日程 2013.12.1 2 後期日程 2014.2.25	150,000円	前期日程 2013.12.1 2 後期日程 2014.2.25	1,750円	前期日程 2013.12.1 2 後期日程 2014.2.25	<ul style="list-style-type: none"> ・本学通学部卒業生および外国人留学生は入学金を免除。 ・本学通信教育部卒業生は入学金を減免。 ・入学金については初年度のみ。 ・授業料、施設費は一括納入の場合の期日。前期・後期分納の場合、半期分を納入した上で、残額を9月20日までに納入すること。
	芸術表現専攻	200,000円	前期日程 2013.12.1 2 後期日程 2014.2.25	927,000円	前期日程 2013.12.1 2 後期日程 2014.2.25	300,000円	前期日程 2013.12.1 2 後期日程 2014.2.25	1,750円	前期日程 2013.12.1 2 後期日程 2014.2.25	<ul style="list-style-type: none"> ■特待生制度 修士課程：年間授業料の半額を免除する。 《1年次(2名程度)》 前期日程入学試験出願者のうち、特待生制度の志望者を対象とする。採用期間は2年間(1年次の就学状況や成績等が芳しくない場合は、2年目の継続を取り消す場合がある)。 《2年次(2名程度)》 入学時に特待生に選抜されていない在学生対象。2年次への進級後、前年度の成績等により総合的に判断。
	芸術専攻	200,000円	2014.3.4	927,000円	2014.3.4	150,000円	2014.3.4	2,600円	2014.3.4	<ul style="list-style-type: none"> 博士課程：授業料全額免除(各学年1名程度) 対象者は在籍者全員。1年次は入学試験の成績、2年次以降は前年度の成績などにより選抜。
(芸術研究科) (通信教育)	芸術環境専攻 (修士課程)	100,000円	2014.3.19	750,000円	2014.3.19	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目のスクーリング受講料は授業料に含む。 ・本学園卒業生は入学金を免除。 ・入学金については初年度のみ。 ・2年次以降の授業料については2月末が納入期限。 <p>【授業料減免制度の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■減免対象の種類・要件 学習が通算3年目以上となる場合に授業料を2割減免。 年限退学時再入学者・内部進学制度適用者について授業料を2割減免。

⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

学生支援組織

芸術学部・芸術研究科

	組織名	機能	年間利用件数		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
学生への保健・衛生対応	保健センター	《機能》 学生一人ひとりが、自己の健康管理に関心を持ち、豊かな学生生活を送ることができるよう、健康支援を行なう。 《スタッフ、対応時間》 専任保健師2名 非常勤4名(医師1名－毎週月曜日、看護師3名－土曜・日曜・祝日交代勤務) 9:00～18:00(月～金曜日)※長期休暇中9:00～17:00 9:00～18:00(土・日・祝日)	6,520	7,614	6,678
カウンセリング等の面談、メンタルヘルス相談	学生相談室	《機能》 日常生活の中で起こる様々な悩みや問題について共に考え、解決するための相談を行なう。 《スタッフ、対応時間》 専任カウンセラー1名 非常勤1名(医師1名－毎週火曜日) 10:00～18:00(月～金曜日) ※年間利用件数については、平成24年度より医師の面談件数を含む	312	721	584
就職支援、進学支援	キャリアデザインセンター	《機能》 就職や進学について個別相談や個別指導を行うとともに、大学全体の学生支援策を立案する。求人や企業説明会について企業開拓を行うとともに、企業と学生とのコーディネートも行う。 《スタッフ、対応時間》 専任職員4名 9:00～18:00(月～金曜日) 9:00～17:00(土曜日)	2,040	2,153	2,193

⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

学生支援組織

芸術学部・芸術研究科

	組織名	機能
履修支援	教学事務室 教学支援グループ	新入生ガイダンス、在学生ガイダンス、履修相談、履修登録・履修修正、成績通知書配付、成績確認、履修相談、既修得単位認定、単位互換制度対応、転学科・転コース相談、休学・退学・復学・再入学・転籍・編入相談等を行なっている。
研究支援	教学事務室 教学支援グループ	〈芸術学部〉創作・研究補助制度の掲示、説明会の実施、申込書類のとりまとめ、審査会運営、採否連絡、授与式運営等の各種手続きを行なっている。 〈芸術研究科〉研究・制作・発表助成制度の掲示、説明会の実施、申込書類の取りまとめ、審査会運営、採否連絡、出金依頼受付等の各種手続きを行なっている。
生活支援	教学事務室 教学支援グループ	学費納入、学生会(代議員制度)、サークル、拾得物取扱、アルバイト募集の掲示、施設使用申込、生活上のトラブル相談、などの支援を行なっている。
経済支援	教学事務室 教学支援グループ	奨学金情報の掲示、採用説明会の実施、申込書類の取りまとめ、採否連絡、振込、返還等の各種手続きを行なっている。
留学生支援	留学センター	生活指導、学費納入、ビザ発給、各種伝達事項管理などの支援を行なっている。
障がいを持つ学生の支援	教学事務室教学支援グループ・ 保健センター	障がいの種類により、学生生活窓口(教学事務室教学支援グループ)、保健センター、学生相談室と所属学科の教職員が連携し、支援体制をとっている。

⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

学生支援組織

通信教育部芸術学部・芸術研究科（通信教育）

	組織名	機能および具体的な支援体制
社会人入学生の支援	通信教育部 学務グループ	夏期スクーリング、冬期スクーリング期間中に、託児ルームを開設し1歳以上～未就学児を持つ学生の履修をサポートしている。利用者には一部経費負担も求めるが、運営に掛かる経費の90%以上は大学で負担し、便宜を図っている。
転籍学生への支援 (本学通学部から通信教育部 への異動希望者)	通信教育部 学務グループ	通学部から通信教育部への転籍を希望する学生の窓口となる事務職員をそれぞれに置き、希望学生やその保護者と個別対応。
障がいを持つ学生の支援	通信教育部 学務グループ	聴覚障がい者のみへの対応として、コース専門教育科目スクーリング受講時に、介助者(スクーリングアシスタント)をアテンドさせる(内容は講義ノートのまとめ補助。学生本人からの要望を基に、コース研究室が判断する)。

⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成26年度）※一部平成25年度実績数有

芸術学部・芸術研究科

奨学金の名称	学内 学外	給付 貸与	1人あたりの 平均支給額	平成25年度 採用人数	要件	申込方法
日本学生支援機構奨学金 第一種（自宅）	学外	貸与	50,909 （月額）	132 （平成26年9 月現在総貸 与人数）	学部1～4年生対象 3万・5万4千円から選択。 学力基準 1年生 (1) 高等学校最終2か年又は専修学校高 等課程最終2か年の成績が3.5以上。 (2) 高等学校卒業程度認定試験もしくは大 学入学資格検定合格者で、上記(1)に 準ずると在学学校長から認められる者。 2年生以上 大学における学業成績が本人の属する学部（科）の上位1/3 以内の者。 家計基準 家計の基準額は、世帯人員によって異なる。本人の父母又はこれに代って家計を支 えている人（主たる家計支持者一人）の収入金額が選考の対象。	4月にガイダンスを実施、4月下旬提出締切。 ガイダンスに出席し、申込書類を受取り、記入後教学事務室窓口へ提出。
日本学生支援機構奨学金 第一種（自宅外）	学外	貸与	61,118 （月額）	177 （平成26年9 月現在総貸 与人数）	学部1～4年生対象 3万・6万4千円から選択。 学力基準 1年生 (1) 高等学校最終2か年又は専修学校高 等課程最終2か年の成績が3.5以上。 (2) 高等学校卒業程度認定試験もしくは大 学入学資格検定合格者で、上記(1)に 準ずると在学学校長から認められる者。 2年生以上 大学における学業成績が本人の属する学部（科）の上位1/3 以内の者。 家計基準 家計の基準額は、世帯人員によって異なる。本人の父母又はこれに代って家計を支 えている人（主たる家計支持者一人）の収入金額が選考の対象。	4月にガイダンスを実施、4月下旬提出締切。 ガイダンスに出席し、申込書類を受取り、記入後教学事務室窓口へ提出。
日本学生支援機構奨学金 第二種	学外	貸与	83,634 （月額）	1054 （平成26年9 月現在総貸 与人数）	学部1～4年生対象 3万・5万・8万・10万・12万円から選択。 学力基準 (1) 出身学校又は大学における学業成績 が平均水準以上と認められる者。 (2) 特定の分野において特に優れた資質 能力を有すると認められる者。 (3) 大学における学修に意欲があり、学業 を確実に修了できる見込みがあると認 められる者。 (4) 高等学校卒業程度認定試験もしくは大 学入学資格検定合格者で、上記に準 ずると認められる者。 家計基準 家計の基準額は、世帯人員によって異なる。本人の父母又はこれに代って家計を支 えている人（主たる家計支持者一人）の収入金額が選考の対象。	4月にガイダンスを実施、4月下旬提出締切。 ガイダンスに出席し、申込書類を受取り、記入後教学事務室窓口へ提出。
日本学生支援機構奨学金 第一種	学外	貸与	72,303 （月額）	33 （平成26年9 月現在総貸 与人数）	院生対象 修士5万・8万8千円、博士8万・12万2千円から選択。 学力基準 大学等並びに大学院における成績が特に優れ、将来、研究能力又は高度の専門性を 要する職業等に必要の高度の能力を備えて活動することができる者と認められる者。 家計基準 本人の収入金額合計（配偶者がいる場合は、配偶者の収入を含む。ただし、定職取 入がある場合が対象。）が収入基準額（修士：374万円、博士：425万円）以下が選 考の対象となる。 定職収入が給与所得以外の場合は、収入金額から必要経費を控除した額となる。	4月にガイダンスを実施、4月下旬提出締切。 ガイダンスに出席し、申込書類を受取り、記入後教学事務室窓口へ提出。
日本学生支援機構奨学金 第二種	学外	貸与	67778 （月額）	9 （平成26年9 月現在総貸 与人数）	院生対象 5万・8万・10万・13万・15万円から選択。 学力基準 (ア) 大学等並びに大学院における成績が 優れ、将来、研究能力又は高度の専 門性を要する職業等に必要の高度の 能力を備えて活動する ことができる者と認められる者。 (イ) 大学院における学修に意欲があり、学 業を確実に修了できる見込みがあると 認められる者。 家計基準 本人の収入金額合計（配偶者がいる場合は、配偶者の収入を含む。ただし、定職取 入がある場合が対象。）が収入基準額（修士：536万円、博士：718万円）以下が選 考の対象となる。 定職収入が給与所得以外の場合は、収入金額から必要経費を控除した額となる。	4月にガイダンスを実施、4月下旬提出締切。 ガイダンスに出席し、申込書類を受取り、記入後教学事務室窓口へ提出。

⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成26年度）※一部平成25年度実績数有

芸術学部・芸術研究科

奨学金の名称	学内 学外	給付 貸与	1人あたりの 平均支給額	平成25年度 採用人数	要件	申込方法
学費減免	学内	給付	175,000 (給付額平均)	80 (平成26年 度実績)	学部2～4年生対象 経済的困窮度の高い上位80名を減免対象とする。 80名のうち、60名に対し1人20万円、20名に対し10万円給付する。 学力基準 標準的な単位数を修得していること。留年不可。（2年生：30単位以上、3年生：62単位、4年生：90単位以上） 家計基準 総務省家計調査・年間収入五分位階級別第1階級以下であること。※父母年収（所得証明書における給与収入額）が433万円以下（自営業等は所得金額191万円以下）であること。共働きの場合は、父母二人の収入を合算。	9月中旬願書配布、10月初旬提出締切。教学事務室窓口で配布される願書を受取り、記入後必要書類とともに提出。
青山会奨学金	学内	貸与		0	0 学部4年生対象 年間学費の半額を上限に貸与する。 学力基準 当該年度に卒業が見込める単位数であること。 家計基準 家計を支える保護者の所得金額を基に、日本学生支援機構奨学金の算定方法を準用する。	教学事務室窓口で配布される申込用紙を受取り、記入後必要書類とともに提出。 (随時)
加藤定育英会奨学金	学外	給付	30,000 (月額)	2 (平成25年 度採用人 数)	学部3～4年生、院生対象 学業優秀、品行方正、就学に耐えうる健康体でありながら、経済的事由によって就学に支障をきたしている者。	7月末提出締切。 要件に該当する候補者を大学にて選出・選考し、推薦する。 平成26年度は秋に募集。
佐藤国際文化育英財団奨学金	学外	給付	30,000 (月額)	2	学部、院共通対象 以下の条件を満たしている者。 (1) 日本画及び油画（版画を含む）を専攻中の者。 (2) 学業、人物ともに優秀であり、かつ健康である者。 (3) 学費の支弁が困難と認められる者。 (4) 例会など財団が指定する行事に毎回出席できる者。 (5) 年齢は原則として35歳未満の者。	4月末提出締切。 日本画・洋画コースより要件に該当する候補者を大学にて選出・選考し、推薦する。
香雪美術館奨学金	学外	給付	50,000 (月額)	1	学部1～4年生対象 兵庫県内の高校の卒業生（あるいは両親が同県内に在住する者）で、財団法人香雪美術館が指定する関西の大学、短期大学の美術、美術・芸術理論・美術史・文化財保存などを専修する学業優秀者。	4月初旬願書配布、4月末提出締切。 教学事務室窓口で願書を受取り、必要書類とともに提出。
あしなが育英会奨学金	学外	貸与	40,000 (月額)	0	学部1～4年生対象 保護者（父または母）が、病気や災害（道路における交通事故を除く）もしくは自死（自殺）などで死亡したり、それらが原因で著しい後遺障害を負い、教育費に困っている家庭の子供。 (注) 保護者が死亡した後遺障害者になったときの子供の年齢が20歳以上の場合は奨学金の対象外。	5月末提出締切。教学事務室窓口で願書を受取り、必要書類とともに提出。
交通遺児育英会奨学金	学外	貸与	60,000 (月額)	0	学部、院共通対象 大学（短期退学も含む）および大学院に在籍している29才までの学生で、保護者等が道路上の交通事故で死亡したり、著しい後遺障害のために働けなくなった家庭の子供。	5月初旬願書配布、6月初旬応募締切。※学部のみ二次募集有。（11月上旬締切） 教学事務室窓口で願書配布。必要書類を準備後、直接本人が育英会へ提出。
中信育英会奨学金	学外	給付	20,000 (月額)	1	2回生対象 学業優秀、品行方正でありながら経済的事由により修学が困難な者。 留学生は除く。	3月末提出締切。教学事務室窓口で願書を受取り、記入後必要書類とともに窓口へ提出。応募者の中から推薦者1名を大学にて選考する。
三菱商事復興支援財団	学外	給付	100,000 (月額)	1	2011年3月11日に発生した東日本大震災によって経済状況が急変（悪化）し、学業継続が困難な状況にある学生。 家計基準：本震災の影響により家計が急変する事由が生じ、経済的困窮度が高いことを在籍大学が認める学生。 学力基準：学習意欲の高い学生。	大学の推薦のもと、願書（兼推薦書）に罹災証明書を添付して、教学事務室窓口へ提出。
特待生	学内	給付	463,500 (年間授業料半額)	6	院生（修士）対象 年間授業料の半額を免除。 1年生 学業・人物ともに優秀な学生。 2年生 学業・人物ともに優秀な学生であり、入学時に特待生に選抜されていない者。	1年生 出願者のうち志望者のみ対象。前期日程入学試験の結果を参考にして選考する。 2年生 5月頃に前年度の成績等を参考に総合的に判断し選考する。（手続不要）

⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成26年度）※一部平成25年度実績数有

芸術学部・芸術研究科

奨学金の名称	学内 学外	給付 貸与	1人あたりの 平均支給額	平成25年度 採用人数	要件	申込方法
特待生	学内	給付	927,000 (年間授業料全額)	2	院生(博士)対象 年間授業料を全学免除。 学業・人物ともに優秀な学生。	1年生 入学試験の結果を参考にして選考する。(手続不要) 2年生以上 5月頃に前年度の成績等を参考に総合的に判断し選考する。(手続不要)
外国人留学生入学金免除	学内	給付	200,000 (入学金全額)	21	大学院新入生対象 入学金を全額減免(※平成24年度入学生より制度改正)	申込要
外国人留学生入学金免除	学内	給付	200,000 (入学金全額)	29	学部新入生対象 入学金を全額減免(※平成24年度入学生より制度改正)	申込要
外国人留学生奨学金	学内	給付	1,227,000 (2014年度学費全額)	1	私費留学・大学院生対象 2013年度学費(授業料・施設費)全額免除 以下の条件を満たしている者 (1) 本学大学院の正規課程として2013年度の成績を取得している外国人留学生であること。 (2) 学業・人物ともに優れていること。(文部科学省学習奨励費算定方法で成績係数2.6以上) (3) 文部科学省の国費、学習奨励費など、その他の奨学金を受給していないこと (4) 国民健康保険に加入し、保険料を滞納していないもの。 (5) 半期の在学生在は対象外とする。	4月応募書類提出。留学センターで配布される願書を受取り、記入後必要書類とともに提出。
外国人留学生奨学金	学内	給付	月額 6万円(受給対象者×0.1以内) 5万円(受給対象者×0.2以内)	15	私費留学・学部生対象 以下の条件を満たしている者 (1) 本学芸術学部の正規課程に在籍する外国人留学生であること (2) 2013年度(1年間)の成績を本学で取得していること (新入生、退学後1年以上経過した再入学生、休学後1年以上経過した復学生は除く) (3) 学業・人物ともに優れていること (文部科学省学習奨励費算定方法で成績評価係数2.6以上) (4) 学習奨励費など、その他の奨学金を受給していないこと (5) 国民健康保険に加入していること	4月応募書類提出。留学センターで配布される願書を受取り、記入後必要書類とともに提出。

⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成25年度実績）

通信教育部芸術学部・芸術研究科（通信教育）

奨学金の名称	学内・学外	給付・貸与	1人あたりの月額平均支給額	平成25年度採用人数	要件	申込方法
学習支援奨学金（大学院）	学内	給付	18,750	4	学習が通算3年目以上となる場合に授業料を3割減免。	個別の申込不要。 授業料請求時に大学にて一括処理(授業料請求から奨学金分を減免する)。
学習支援奨学金 （学部：芸術学科）	学内	給付	5,775	198	同一コースでの学習が通算5年目以上となる場合に授業料を3割減免。 ただし、下記の年限退学時再入学奨学金受給者、卒業後再度入学奨学金受給者、併修生奨学金受給者への重複支給は行わない。	
学習支援奨学金 （学部：日本画・洋画）	学内	給付	6,925	204		
学習支援奨学金 （学部：陶芸・染織）	学内	給付	7,500	107		
学習支援奨学金 （学部：写真・アニメーション・デザイン科）	学内	給付	8,075	312		
年限退学時再入学奨学金（大学院）	学内	給付	18,750	0		
年限退学時再入学奨学金 （学部：芸術学科）	学内	給付	5,775	69	年限退学時再入学制度（在籍年限終了の翌年度に同一コースに入学）による入学者に在籍期間を通じて授業料を3割減免。	
年限退学時再入学奨学金 （学部：日本画・洋画）	学内	給付	6,925	59		
年限退学時再入学奨学金 （学部：陶芸・染織）	学内	給付	7,500	24		
年限退学時再入学奨学金 （学部：写真・アニメーション・デザイン科）	学内	給付	8,075	88		
内部進学奨学金（大学院）	学内	給付	18,750	101	内部進学制度（通信教育部卒業、博物館学芸員資格課程修了後入学）、大学院進学準備制度による入学者に在籍期間を通じて授業料を3割減免。	
卒業後再度入学奨学金 （学部：芸術学科）	学内	給付	5,775	22	卒業後再度入学制度（コース卒業後、同一コースまたは別コースに入学）による入学者に在籍期間を通じて授業料を3割減免。	
卒業後再度入学奨学金 （学部：日本画・洋画）	学内	給付	6,925	5		
卒業後再度入学奨学金 （学部：陶芸・染織）	学内	給付	7,500	2		
卒業後再度入学奨学金 （学部：写真・アニメーション・デザイン科）	学内	給付	8,075	10		
併修生奨学金 （学部：洋画）	学内	給付	3,083	7	提携する交流校（専門学校）との併修生に在籍期間を通じて授業料を減免。	
併修生奨学金 （学部：情報デザイン）	学内	給付	3,583	29		

⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成25年度実績）

通信教育部芸術学部・芸術研究科（通信教育）

日本学生支援機構奨学金 （学部：第一種・第二種併用）	学外	第一種：貸与 （無利子） 第二種：貸与 （有利子）	17,333	2	夏期スクーリング受講時に奨学金貸与（年間1回）。	希望者は大学へ申込書一式提出。 学内審査を経て、大学より日本学生支援機構へ申請。
日本学生支援機構奨学金 （大学院：第一種）	学外	貸与 （無利子）	50,000	1	修了年限（2年間、24ヶ月）、毎月貸与。	

課外活動への支援（平成25年度実績）

通信教育部芸術学部・芸術研究科（通信教育）

活動支援の名称	学内・学外	給付・貸与	1件あたりの金額	平成25年度採用人数	要件	申込方法
学生創作研究助成金制度 ※1	学内	給付	34,000 98,000	2	—	通信教育部の学生は47都道府県に在住している。その自らが生きる場所や地域、世界のなかで、新しい芸術環境を創出する方法の習得を本制度の目標とする。 助成金額は1件あたり上限20万円とし、申請書類による審査を経て暫定的助成額を6月に決定し通知する。最終的助成金額は実施報告書による審査を経て、2月に決定し支給する。
学習会活動支援	—	—	—	18	学生が自主的に開催する学習会に対して、一定の基準を満たす場合に、学生からの申請により教員を派遣する場合がある。その場合の派遣にかかる経費を大学で負担する。	実施一ヶ月前までに大学へ申込。

2013年度産学連携一覧

No	受託研究名	期間	委託機関	概要	学生関与（人数）	単位認定
1	栗田神社大燈呂制作プロジェクト	2013.04-11	栗田大燈呂実行委員会	2008年より継続されたプロジェクト。京都東山にある栗田神社最大の祭礼行事「世渡り神事」を180年ぶりに復活させた。神社や周辺地域の歴史・伝承等を調査、京都の歴史・芸術・文化・風土等を掘り下げ、「大燈呂」のデザインを提案・制作に取り組み、祭礼に参加。東山花灯路にも展示。	有（25名）	有
2	今熊野猿楽復活プロジェクト	2013.04-2014.3	新熊野神社 今熊野猿楽復活実行委員会	観阿弥・世阿弥父子が足利義満に見せた猿楽が、後の能へとなった今熊野猿楽を650年の歴史を越えて再現したプロジェクト。3月から9月本番まで狂言・茂山あきら氏の演技指導のもと学生・氏子達が14回の練習を重ね、9月19日に再現公演を新熊野神社境内で実施（観客数250人）。	有（3名）	無
3	今熊野商店街マップ制作	2013.04-08	今熊野商店街振興組合	既存のマップなどに記載されていなかった今熊野周辺の新たな観光資源の紹介と商店街一軒一軒への取材を通じて、紹介記載及びマップデザインワーク。10月発行。	有（3名）	無
4	しまね新商品開発プロジェクト	2013.10-2014.02	公益財団法人しまね産業振興財団	しまね産業振興財団より委託した「しまね地域資源活用継承事業」は今年で4年目。島根県の地場産業の特色を活かした製品開発をプロジェクト演習として行っています。今年度は一畑電車とのコラボレーション新商品開発や、來待石、福光石、出雲民芸和紙を用いた新商品開発、新しいデザイン、可能性を備えた商品の提案を現地視察し、最終は企業向けのプレゼンテーションと成果作品展示までを行いました。	有（13名）	有
5	竹内街道1400年記念シンポジウム&ワークショップ	2013.09-2014.02	JTB西日本奈良支店	竹内街道敷設1400年、日本最古の官道・竹内街道がもたらす文化産業、そして歴史背景を捉えながら、その地域資源について考え、地元地域遺産・資源を発掘し、如何に活用すべきかをテーマに葛城市當麻文化会館ホールにおいてシンポジウム実施（12月23日・動員600名）と5つのワークショップ実施（2014年2月2日・参加者数200名・葛城市當麻文化会館）。	有（5名）	無
6	田の字地区活性化プロジェクト	2013.05-2014.03	田の字地区活性化実行委員会	田の字地区活性化プロジェクトとは、田の字地区活性化実行委員会をはじめとする京都市中京区地域に住む方々と連携して、田の字地区と呼ばれる地域の活性化を計るプロジェクトです。活動範囲は京都の中心地、東西は先斗町通から烏丸通り、南北は御池通りから四条通までとしており、通常と違って限定的な地域を指しています。プロジェクトでは「田の字地区の魅力の再発見・再創造」と「田の字地区の魅力を住民・地域で働く人・観光客に向けてPRする」を主な目的とし、今年度はこれまでの調査をまとめた報告書『田の字の記憶』を作成。	有（12名）	有
7	手しごと職人のまち東山再発見プロジェクト	2013.04-2014.03	京都市東山区役所	京都市東山区区内で、現在も活躍を続ける職人を昨年に引き続き調査した。京都造形芸術大学の学生と東山区役所職員で構成されたチームで調査を実施。ヒアリング調査を行い、データベースとなる基本構想の構築化を作成した。職人弾丸ツアーを春秋の2回実施（来場者28名39名）、事業成果をまとめた「職人手帖」を発行、3月8日に職人サミットも実施（来場者71名）し、職人の現状を発信した。	有（23名）	無
8	東洋ケース 新商品開発プロジェクト	2013.10-2014.02	東洋ケース㈱	東洋ケース株式会社の技術を活かした、シール（蒔絵シールとウォールステッカー）の新しい用途とデザインを考案。最終は本社でのプレゼンテーションを行い、評価を得たため、同社にてサンプルを作成いただき14年7月のギフトショーに出展予定。	有（18名）	有
9	盲導犬PRプロジェクト	2013.05-2014.04	公益財団法人関西盲導犬協会	視覚障害者および盲導犬への一般の理解促進を目的とした、新しいPR活動の提案と実施を行うプロジェクトとして始動。ラジオ番組、観光ガイドブック制作など複数の提案を行った結果、商業施設での巨大すごろくイベントの開催に決定。10月16日にイオンモールKYOTOにて「巨大すごろくC town」を実施。門川大作・京都市長を含む100名以上の参加を得た。関西盲導犬協会職員からのレクチャーや凸版印刷の専門家によるユニバーサルデザイン講習など学習要素を多く盛り込んだ。企画案が評価を得て、すごろくの卓上ゲーム開発及び視覚障害に関する学会発表（14年7月予定）に発展。有志メンバーで継続中。	有（19名）	有
10	伏見+Artフェスティバル2014	2013.10-2014.03	F7プロジェクト・京都市	伏見+Artフェスティバルは伏見桃山・中書島地域の商業活性化のために活動をする「F7（エフセブン）プロジェクト」との連携により2012年からスタート。2回目の開催にあたる2013年度は伏見桃山・中書島地域の「7商店街」にて、8つの企画を実地。アート製作・冊子づくり・広報PR活動を行いました。 ①アーケード演出モニュメント②龍馬通りシャッターアート制作③街路灯吊り下げストーリーマンガ④巨大紙芝居大会⑤「お地蔵さんの三・九市」⑥中書島映画祭⑦大手筋ええやん！パレード⑧アートな小物店、以上の8つの企画を実施。イベントや広報を通じて、商店街同士の交流の活性化や地域住民へのつながりの強化、商店街の魅力の深堀りや最認知、観光客へのアピール等、伏見桃山・中書島地域の盛り上げに大いに貢献することができました。	有（25名）	有
11	松江武者行列2014	2013.08-2014.04	松江武者行列実行委員会	松江武者行列事業を島根県松江市と連携して取り組んで今回で7回目。松江開府400年祭の一環で、2005年までは松江祭行列と同日の秋のイベントとして開催していた松江武者行列は、「松江開府400年祭」が開始される2007年より、そのオープニングイベントとして春に開催するようになりました。※2014年4月5日（土）に開催	有（1名）	無

12	やましろの歴史deまちづくりシンポジウム運営	2013.07-11	一般社団法人山城青年会議所	やましろの魅力再発見をテーマに、資源掘り起こしのノウハウなどをシンポジウムで展開（11月15日・動員数200名・けいはんなプラザイベントホール）。また地域資源のひとつである山城一揆のイベントでは、段ボールで作る鑑兜のワークショップを実施（7月28日・参加者数50名・けいはんな記念公園）。	有（3名）	無
13	進々堂100周年記念祝賀会	2013.04-2013.06	（株）進々堂	6月5日に京都プライトンホテルで行われる進々堂100周年記念式典に向けて、2010年度より参加した進々堂プロジェクト選抜メンバーが、企画の展示、舞台やテーブル等の空間演出プランを提案、実施した。記念誌を制作した芸表現学科新元ゼミ、舞台演出で美術工芸学科卒業生と和太鼓研究センターとも連携した。	有（12名）	無
14	京料理しつらえプロジェクト	2013.07-2014.12	京都料理芽生会	毎年12月に行われる京料理展示会を、一流の若手料理人とともに、七福神の忘年会、日本のクリスマス、大晦日の料理、20年後のお正月をテーマとする展示空間を作り上げた。京料理について学び、器や展示台、DMデザインや看板制作も手がけた。（来場者数：13日1056名／14日1372名）	有（32名）	有
15	妙心寺退蔵院襖絵制作プロジェクト	2011.03-2014.3	退蔵院	退蔵院方丈内の襖絵作成にあたっての、絵師の手配及び制作指導。本学卒業生が、退蔵院との業務委託を受ける形で、襖絵を作成。2011年度からの継続案件で、2013年度が最終年度。受託としては終了するが、今後も絵師として、村林さんは、退蔵院に関わっていく。	卒業生1名	無
16	大阪市立大学医学部附属病院・医療安全管理部会議室リフォーム	2013.7-2014.3	大阪市立大学医学部附属病院	大阪市立大学医学部附属病院内にある「医療安全管理部」の会議室の改修プロジェクト。最低限の施工で創造的な空間とできるよう、同病院施設課と協働して改修案を提示、HAPii+プロジェクト経験者によって実際の改修を行った。テーブルクロスとして染織テキスタイルの大学院生・小林麻耶の作品も活用した。	有（6名）	無
17	京都大学霊長類研究所展示施設プランニング	2014.1-3	京都大学	愛知県犬山市の京都大学霊長類研究所内にある「展示室」の改修案を検討するプロジェクト。最先端の霊長類研究の情報発信と、研究者同士の交流、さらに同大学が行う先進的な大学院教育にも対応可能な提案を行った。実際の改修計画は同大学にて検討中	有（5名）	無
18	京都府庁喫煙所用ベンチ制作プロジェクト	2013.07-09	アートファクトリー(株)	JTの仲介により、京都府庁内の喫煙所設置にあたって、北山杉を使つてのベンチ制作。設置終了後、現在、商品化に向けて、京都市をはじめ、関係団体との調整を行っている。	有（6名）	無
19	長栄マンションリフォームプロジェクト	201.304-2014.04	株式会社長栄	2011年度からスタートした、学生による賃貸物件のリフォーム提案。前後期の2期に分かれて提案を行う。優秀なものは、実際に物件化し、顧客の評判もいい。2014年度も継続が決定している。	有（15名）	無
20	ホスピタルアートプロジェクト(HAPii+2013)	2013.04-2014.2	京都府立医科大学附属病院・NPO法人アーツプロジェクト	今年で5年目となる本プロジェクト。本年は森本玄先生から由井武人先生に代わり、主として動いていただきました。引き続き京都府立医科大学付属病院内、昨年制作したPICU（小児集中治療室）に続く正面の廊下にフレスコ画の設置と家族待合室のガラス面にカットティングシートを設置。今年のコネクトは「ii」（アイアイ）は人と人や人と自然が寄り添いながら生き、互いに支えあっている温かさを表現したいという想いが込められています。廊下一面に設置されたフレスコ画は、環境改善のお声も頂きプロジェクトは次年度にも繋がっています。	有（23名）	有
21	藤井大丸ウィンドウディスプレイ制作プロジェクト（夏）	2013.04-08	（株）ケー・ディー	藤井大丸地下ウィンドウディスプレイ制作プロジェクト。夏は藤井三愛の三愛水着のディスプレイを制作。アベノミクス効果が現れ始めた社会情勢をもとに「To the quality of my new（新しい私らしさへ）」というテーマで学生たちがアイデアを出し合いました。巨大なシーラカンスが灰色の鱗を脱ぎ捨て色鮮やかな自分へと変化していく様をディスプレイで表現し、通行人に大きなインパクトと水着のアピールに成功しました。	有（25名）	有
22	藤井大丸ウィンドウディスプレイ制作プロジェクト（冬）	2013.07-12	（株）ケー・ディー	藤井大丸地下ウィンドウディスプレイ制作プロジェクト。冬は藤井大丸内の各店舗のクリスマス商品陳列のディスプレイを制作。アベノミクス効果により、株高・円安が進みましたが消費税増税が控えており駆け込み需要が増えました。その結果クリスマスにはよりお金を投資する傾向が現れることを考え「Will decorate!!（飾ろう!!）」のテーマでディスプレイのアイデアを出し合いました。結果、8体のトナカイにボタンやビーズをちりばめた作品はクリスマス商品を美しく引き立て、見る人に期待と感動を与えました。	有（21名）	有
23	ワールド伊丹ウィンドウディスプレイ（2013春）	2012.11-2013.7	（株）ワールド	（株）ワールドが全国のイオンモールに展開する複合ブランドショップ「フラクサス」のためのウィンドウディスプレイのデザインと子供向けWSイベントの提案と実施。「わくわくどきどき」というキーワードを提示され、それに基づきイメージを展開。	有（18名）	有
24	ワールド伊丹ウィンドウディスプレイ（2013冬）	2013.9-2014.1	（株）ワールド	上記と同じく、「フラクサス」クリスマスウィンドウディスプレイとワークショップの展開。	有（26名）	有
25	ワールド伊丹ウィンドウディスプレイ（2014春）	2013.12-2014.7	（株）ワールド	上記と同じく、「フラクサス」夏ウィンドウディスプレイとワークショップの展開。	有（19名）	有
26	大塚国際美術館・展示衣装制作（夏）	2013.05-08	大塚国際美術館	「神のごときミケランジェロ」で使用する展示する衣装制作	有（7名）・卒業生1名	無
27	大塚国際美術館・展示衣装制作（秋）	2013.04-07	大塚国際美術館	夏休み子どもプログラム名画で体験イタリアめぐり 古代ローマ編にて使用する衣装製作		無

28	京都ロフト コクヨ商品ディスプレイ企画	2013.05-08	プロモコム㈱	京都ロフトの1階スペースにて、コクヨ商品PRの為の展示の企画提案及び制作・設置	有(8名)	有
29	Kyoohoo2013 生活と雑貨デザインプロジェクト	2013.05-2013.09	京都産業21	京都の伝統産業異業種交流会(キョフー)に参加する企業とコラボし、和雑貨の商品企画・デザインと、販売促進関連のデザインに取り組む、2008年後期にスタートしたプロジェクトです。年2回、ニューヨークで開催される「国際ギフトフェア」に製品を出展。その後、欧米市場、アジアにも本格進出。伝統技術と現代を融合したもののデザインからことのデザインまで、実社会が求める課題に、グローバルな視点でリアルに取り組める、通常の授業では経験出来ないプロジェクトです。	有(15名)	有
30	二条城ライトアップ2014	2013.12-2014.04	公益社団法人京都市観光協会・京都市	二条城ライトアップ事業を京都市(京都市観光協会)と連携し、取り組んで今回で10回目となりました。※ライトアップは平成14年より開催 世界遺産に登録されている二条城を舞台にライトアップ期間中、城内を趣のある雰囲気演出する竹材による照明器具の制作・設置を本学学生25名が担当教職員3名の指導のもと、山科の竹藪で竹の切り出しから運搬、デザイン、製作、設置、そして搬出までの全ての作業を行い、ライトアップ期間中は同学生がシフトを組み、運営、城内来場者の対応なども行いました。	有(25名)	有
31	New Rich Project -堀川団地で新しい豊かさを考える	2014.02-03	京都府商工労働観光課	再開発を予定している堀川団地の空き店舗を利用した地域活性化事業。「New Rich Project-堀川団地で新しい豊かさを考える」と題し、フィールドワークから企画立案・実施まで行った。	有(56名)	有
32	京都肉すき焼きPV制作	2013.6-2014.2	京都肉牛生産流通協議会・京都市	京都のブランド牛「京都肉」のプロモーション映像を制作	有(5名)	無
33	大阪富国生命ビル七福神イルミネーション展示	2013.12-2014.01	三菱地所プロパティマネジメント	大阪藝術学舎も入居する大阪富国生命ビル地下1階アトリウム空間に、造形大イルミネーションプロジェクトで制作したねぶたを展示。年末年始から十日戎までの期間、七福神の乗った宝船が利用者を笑顔にした。	有(5名)	無
34	本能寺のD	2013.04-06	法華宗 大本山本能寺	本能寺創建六〇〇年記念イベントとして、5月5日6日に本能寺の本堂を舞台に、舞踏家の伊藤キム、打楽器演奏家の加藤訓子、画家の広田稔によるコラボレーション公演『本能寺のD』の演出を行う。舞台セッティング、楽器・音響セッティング、照明等の準備や当日運営にあたる。6月19日-27日に本学オープンにて、「本能寺のD展」も開催する。	有(8名)	無
35	漆をPRするためのパンフレット	2013.06-継続中	堤浅吉漆店	石油製品に頼った使い捨ての時代に、漆というものの良さを伝えることを目指すリーフレットを制作。	有(1名)	無
36	「みえ紀南4号」ブランディング	2013.06-2014.01	三重県農業研究所	2012年度に担当した「シマサルナシ」という果物のブランディングデザイン(ロゴマーク、パッケージデザインなど)に引き続き、2013年度は「みえ紀南4号」というみかんを担当。ロゴマークに加え、キャラクター、PRソングの歌詞なども制作。	有(8名)	無
37	東洋ケースレインコートカタログ制作	2013.10-2014.04	東洋ケース㈱	レインコートの「カトレヤ」シリーズのリーフレットを制作。花粉が付きにくい素材など、1年通して雨の日以外でも使える点をアピールすることを目指した。2014年の9月頃から店頭(主に関西の大丸デパートなど)にて配布開始予定。	有(5名)	無
38	京都市営地下鉄東山駅ナカアート	2013.10-2014.05	京都市交通局	「京都予告編」をテーマに、地下鉄東西線「東山駅」にて平面作品(ポスターなど)を設置。京都を「歴史」「文化」「自然」「現代」という4つのカテゴリーに分けて、観光客にアピールできる作品を制作した。 会期: 2014年3月27日~5月31日	有(4名)	無
39	「京のすっぴんさん」パッケージデザイン	2013.07-2014.04	㈱京都無添加せっけん工房	「京のすっぴんさん」という化粧品シリーズ(パウダー、クリーム、化粧水など)のブランディングデザインを担当。ロゴマークやパッケージデザインを制作。主にネット通販で2014年夏頃から販売予定。	有(7名)	無
40	「京を包む」イベントデザイン	2014.02-03	京都織物卸商業組合	「京を包む」展示会用の映像制作、搬入・搬出。	有(2名)	無
41	近代産業遺産アート再生プロジェクトまか通VII	2013.04-2014.03	京都市東山区 六原自治連合会 大学コンソーシアム京都	京都市東山区六原地域に点在する近代産業遺産である建造物、文化、伝承などを中心にフィールド調査を重ね、事象をアート目録で捉えなおしイベントやワークショップを実施。鐘馗祭をはじめ等地域に埋もれた伝承や文化を復活させるイベントを企画、運営した。3月には活動成果冊子(88頁)を発行。観光資源開発と地域振興と地域コミュニティーのあり方関わり方を学んだ。学まちコラボ事業として認定された。	有(22名)	有
42	アートフェスタin大山崎町2013	2013.05-09	京都府 大山崎町 離宮八幡宮	7年目となるこのプロジェクトでは「大山崎町のことをもっと好きになる」をコンセプトに、離宮八幡宮でのライトアップ&ライブ、展示、子ども向けワークショップを実施。今年度はこれまでのライブへの出演以外にも地元でサークルやお店が独自に「出店」するなど、より地域の参加を進めることができた。また、「京都府文化力で京都を元気にする事業補助金」から助成を受けた。	有(10名)	有

43	鳥取砂像制作プロジェクト	2013.05-09	鳥取市	プロジェクトとして2年目を向かえ、砂像製作を通じた鳥取県鳥取市気高町の地域活性化を主軸とし、逢坂地区との交流会も開催。地元住民の方たちとの親睦会を始め、地元特産品を使ったお御輿や逢坂地区の土や気候を生かした陶器の製作の提案など、県外の学生からみた鳥取逢坂地区の魅力を調査し地域活性化に繋がる提案を行った。住民からは新鮮な発想や、自分たちにとっては当たり前前のが、他では珍しいものになるということに気づいたなど、地元の魅力再発見に繋がったという意見、なにより若い学生と交流を持つ機会ができた元気がでたというお声を頂いた。気高町の砂像製作では4基の砂像とそれをつなぐ巨大な龍の砂像を制作。制作場所である浜辺をライトアップし、住民たちに披露した。また、本年度は学園祭まで活動を広げ、逢坂の土で作った陶器や、特産品の紹介、鳥取に対するアンケート調査などを行った。実際に地域を代表して7名の方が大学にかけつけて一緒にPRを手伝って頂き、今まで以上に深い交流が持てたプロジェクトとなった。	有 (16名)	有
44	造形大イルミネーション	2013.07-12	本学自主企画	毎年恒例となっている、本学人間館の柱を利用したイルミネーションと、これに続くビロテーター部にLEDライトを使用した、クリスマスイルミネーション。「年中夢中」をテーマに景気回復をオブジェで表現した。発泡で七福神を作成し、木材で舟、ねぶたで波を製作するなど、通りを行く人や学内を出入りする人々の心を明るく楽しませた。点灯式には餅まきを行い景気上昇を願った。	有 (22名)	有
45	京造見世物小屋 (お化け屋敷) プロジェクト	2013.05-10	本学自主企画	今年で5年目を迎えた学園祭企画イベントを、前期プロジェクト演習として教学事務室より請け負いました。※お化け屋敷としては2008年より開催 担当教職員5名の指導のもと、参加メンバー38名がミーティング、フィールドワーク、室内装飾デザイン、オブジェ製作、設営、そして搬入搬出までの全ての作業をし、また学園祭期間中は学生がシフトを組み、運営、来場者の対応、アンケート取りなども行いました。	有 (38名)	有
46	プロジェクト・オペレーション2013	2013.05-2014.03	プロジェクトセンター	リアルワークプロジェクトに関わる人を取材し、今まで以上に学内外にプロジェクトの認知度や意義を高めていくことを目的とした。メンバーがどのように成長したのか等、ブログを通じて取材情報を発信した。卒業生への取材も行い、3月1日にイベント「PJカフェ」の運営と冊子「I Love PJ」を発行した。	有 (7名)	有
47	東山花灯路プロジェクト	2013.12-2014.05	京都・花灯路推進協議会	毎年3月に開催される東山花灯路の「大学のまち伝統の灯り展」に3点の作品を出展。デザイン企画、制作、搬出入、スケジュール全般の管理を行う。同様に開催する大阪成蹊大、京都市立芸術大、京都嵯峨芸術大、成案造形大に呼びかけをし、合同で展示期間初日に各作品のレビューを行った。(展示期間:3/14~23 展示場所:円山公園)	有 (15名)	有
48	YANOBE PROJECT 2013	2013.05~2013.08	あいちトリエンナーレ事務局 京都美術工房	「あいちトリエンナーレ2013」で発表されたヤノベケンジの新作インスタレーション《太陽の結婚式》を制作したプロジェクト。学生はFRPとステンレス製の《ウルトラ・サン・チャイルド》、木彫の《チャーチ・チェア》、アクリル製の《太陽の礼拝堂》、陶器の《クビド》を制作、現場設営にも立ち会った。なお《太陽の礼拝堂》のスタンドグラスの原画はビートたけしが手掛けている。美術館の一角を教会へと変貌させ、実際の結婚式も行われた。	有 (26名)	有
49	YANOBE PROJECT 2013 NEXT	2013.10~2014.02	ヤノベケンジ (京都府)	京都文化博物館で2014年1~2月に開催された「京都府美術工芸新鋭展」。その特別出品作品《Sun Sister》を制作したプロジェクト。東日本大震災後に制作されたヤノベの作品《Sun Child》の姉として生み出されたモニュメントは、高さ5.6m、目を閉じて座った姿勢から、両手を広げて立ち上がるという動作を繰り返す。前期のヤノベプロジェクトに参加した学生5名に、新規メンバー1名を加えて、制作をおこなった。	有 (6名)	有
50	やなぎみわ演劇プロジェクト	2013.05~2014.03末	本学自主企画	やなぎみわ演劇公演における、演出、美術、衣装、制作など技術的な部分だけではなく、公演全般に関わるプロジェクト。前期は、神奈川、愛知での公演《ゼロ・アワー 東京ローズ最後のテア》や、案内嬢プロジェクト(ワークショップ+パフォーマンス)を実施。後期には、《パノラマ-唐ゼミ☆版》の公演を東京の坂本小学校、京都の元・立誠小学校で行った。あわせて、学生たちが自主的に観劇ツアーをおこない、そのレポートを踏まえたディスカッションもおこなわれた。	有 (19名)	有
51	ULTRA SANDWICH PROJECT	2013.05~2014.03末	本学自主企画	名和晃平が主宰する、クリエイティブ・プラットフォーム「SANDWICH」における制作、企画、運営に参加するプロジェクト。「あいちトリエンナーレ2013」では、泡のインスタレーション作品《Foam》、「瀬戸内国際芸術祭」では犬島の「家プロジェクト」に参加し、建築物内部や坪庭など空間全体を使った作品《Biota (Fauna/Flora)》を制作。また、韓国では、大規模な屋外彫刻《Manifold》の設置お披露目に立ち会う。さらには学生主導で、広島・尾道のサイクリスト向け施設「Onomichi U2」に展示するための作品《Molecular Cycle》を制作した。	有 (23名)	有

52	高橋匡太ひかりのプロジェクト2013	2013.05～2014.03 末	本学自主企画	光を使って出来事を起こしていく高橋匡太率いるプロジェクト。作品の制作と、ワークショップの開催、運営などを行った。豊田市美術館での「夏休み子どものプログラム2013 高橋匡太ーぼくとひかりと夏休みー」では、制作と運営をサポート。色とりどりの光が照らされた展示室に、10トンの粘土を用意し、訪れた子ども達が自由に遊べるような場を作った。他にも「あいちトリエンナーレ2013」「ニューイ・ブランシュKYOTO 2013」「豊田市美術館ライティング・プロジェクト」「スマートイルミネーション横浜2013」など、全国にわたるさまざまなプロジェクトに参加した。	有 (24名)	有
53	BY EDIT	2013.05～2014.05	本学自主企画	編集的思考であららしいモノやコトの創造を目指すBY EDIT。様々なことにアンテナを張りながら、メンバー間やディレクターとの会話のなかで出たアイデアをかたちにしてきた。8月にはヤノベケンジのインスタレーション《太陽の結婚式》で行われた本当の結婚式ではウエディングブックを制作し、配布。2014年3月には、大阪の新進気鋭の「劇団子供鉅人」を招き、ウルトラファクトリーの工房を舞台に、即興演劇ワークショップ「ウルトラファクトリー殺人事件」を行う。また、ウルトラファクトリーにまつわる出版物の編集を担当した。	有 (6名)	有
54	デザインゼミ「ZZZ」	2013.05～2014.06	有限会社アートビートパブリシヤーズ	「眠れる価値を見出す」をコンセプトに掲げて、今年度から始動したデザインプロジェクト。1年目であったが、多岐にわたるデザインワークを実践した。三越日本橋店の創業340周年プロジェクトでは、メインビジュアルをデザインし紙袋やポスター、店内装飾などで使用された。また、小豆島で美術を体験できる宿「クマグスク」の中庭のデザインと施工、およびサイン計画のほか、ウルトラファクトリーにまつわるグラフィックを担当した。	有 (13名)	有
55	ULTRA AWARD 2013	2013.05～2014.03 末	本学自主企画	2013年で4回目となる本学学生・卒業生（卒業2年以内）を対象としたアート・コンペティション。応募者から5名の学生を選出。ファクトリーでの約3ヶ月間の制作期間の後、ARTZONEで展覧会、審査会を実施。一連の活動をまとめたカタログを制作した。13年は修士1年の中国人留学生、黄海寧が独創的な彫刻作品で最優秀賞を受賞。電撃訪問した蔡國強氏もそのユニークさを評価した。また、12年の選出作家である塩見友梨奈は13年に2つのコンペティションで大賞を受賞するなど輩出作家は多方面で活躍している。	有 (6名)	無
56	舞台「ゼロ弾きのゴーシュ」人形制作	2013.10～2014.03 初	JT生命誌研究館	JT生命誌研究館20周年を記念して上演される人形劇《生命誌版ゼロ弾きのゴーシュ》の人形を制作するプロジェクト。舞台の演出、人形遣いを担当するのは、チェコを拠点に活躍する現代人形劇パフォーマーの沢則行。作品は人間が人形と共に舞台に立つ「フィギア・アート・シアター」の手法を用いた舞台。学生は海外にいる沢とスカイプミーティングを繰り返し、人形のデザインから制作までを行った。	有 (12名)	無
57	ヤノベ×よしもと新喜劇	2013.12～2014.02	よしもとクリエイティブエージェンシー	ヤノベケンジがあらすじ起草から参画し新喜劇役者とコラボレーションした「吉本新喜劇×ヤノベケンジ」のプロモーション活動として、PV制作やパフォーマンス告知などを行った。	有 (12名)	無
58	宮永愛子 NISSAN ART AWARD	2013.08～09	宮永愛子	本学の卒業生である宮永愛子が「NISSAN ART AWARD 2013」へ出品したインスタレーション作品《手紙》の一部分をウルトラファクトリーで制作。AWARDに対する宮永の並々ならぬ意気込みから学生たちも一丸となり、見事に初代グランプリを勝ちとった。	有 (8名)	無
59	ZENT モニュメント制作	2014.02～2014.04	ヤノベケンジ (株式会社 善都)	「あいちトリエンナーレ2013」で発表されたヤノベケンジのステンレス製の作品《ウルトラ・サン・チャイルド》の全身像を制作、名古屋市内に新しくオープンした複合アミューズメント施設のモニュメントとして設置した。参加学生はあいちで身に着けた技術の実践制作として、スケジュール管理を行い制作を遂行した。	有 (11名)	無
					のべ812名	

学術交流協定校一覧【2014年7月現在】

↓学生交流協定校番号				学術交流協定校		学生の交換留学(履修単位の認定)が可能な学科													協定締結年
No.	地域	国	都市	大学名	英語名	美工	マンガ	キャラ	情D	プロD	空D	環D	映画	舞台	文芸	ASP	子ども	歴産	
	アジア	韓国	ソウル	世宗大学校	Sejong University														1999年
	アジア	韓国	儀旺	桂園造形芸術大学	Kaywon School Of Art and Design														2000年
	アジア	韓国	平沢	韓国国際大学校(晋州専門大学/一善学院)	International University of Korea (Chinju College)														2001年
	アジア	韓国	大田	培材(ベチエ)大学校	Pai Chai University														2001年
1	アジア	韓国	ソウル	弘益大学校	Hongik University	○			○	○		○				○			2003年
	アジア	韓国	ソウル	延世大学校	Yonsei University														2007年
2	アジア	韓国	ソウル	韓国芸術総合学校	Korea National University of Arts	○		○	○	○	○	○	○	○		○			2008年
	アジア	韓国	扶余	韓国伝統文化学校	The Korean National University of Cultural Heritage													△※3	2008年
	アジア	韓国	テグ	啓明大学校	Keimyung University														2013年
	アジア	シンガポール	シンガポール	ラサール芸術大学	LASALLE College of the Arts														2014年
3	アジア	台湾	台北	国立台北芸術大学	Taipei National University of the Arts	○		△※3	△※3					○					2011年
	アジア	中国	西安	西安文理学院	Xi'an University of Arts and Science														1996年
	アジア	マレーシア	クアラルンプー	国立芸術文化遺産アカデミー	The National Academy of Arts, Culture and Heritage														2014年
4	欧州	イギリス	グラスゴー	グラスゴー美術学校	Glasgow School of Art					○									2009年
5	欧州	イギリス	ボーンマス	ボーンマス芸術大学	Arts University Bournemouth	○	○	○	○	○	○	○	○	○		△※2			2011年
6	欧州	イタリア	ボルツァーノ	ボゼン・ボルツァーノ自由大学	Free University of Bozen Bolzano (FUB)				○	○									2011年
7	欧州	イタリア	ミラノ	ミラノ新美術アカデミー	Nuova Accademia di Belle Arti, Milano				○	○	○	○							2014年
8	欧州	オーストリア	ウィーン	ウィーン美術アカデミー	Academy of Fine arts Vienna	○			○		○							△※3	1995年
9	欧州	スイス	チューリッヒ	チューリッヒ芸術大学	Zurich University of the Arts	○		○	○	○			○	○		△※2			2002年
10	欧州	スイス	ジュネーブ	ジュネーブ造形芸術大学	Geneva University of Art and Design	○			○		○	○	○						2009年
11	欧州	スウェーデン	ストックホルム	コンストファック/国立芸術工芸デザイン大学	University of College of Arts, Crafts and Design	○			○	○		○							2011年
12	欧州	チェコ	プラハ	プラハ芸術建築デザインアカデミー	Academy of Arts, Architecture and Design in Prague	○			○	○	○	○							2012年
13	欧州	チェコ	プラハ	国立芸術アカデミー映画学部	Film and TV School of Academy of Performing Arts in Prague			○	○				○						2012年
14	欧州	フィンランド	サヴォニア	サヴォニア応用科学大学 クオピオ・デザインアカデミー ※1	Kuopio Academy of Design Savonia University of Applied							●							2013年
15	欧州	フランス	セルジー	セルジー国立高等美術学校 ※1	École Nationale Supérieure d'Arts de Paris Cergy	●													2012年
16	欧州	フランス	パリ	国立高等装飾美術学校	École Nationale Supérieure de las Arts Decoratifs	○													2013年
17	欧州	フランス	アルル	国立高等写真学校	École Nationale Supérieure de la Photographie	○													2013年
	中南米	メキシコ	メキシコシティ	国立ラ・エスメラルダ美術学校	The Esmeralda Art School	●													1993年
18	北米	アメリカ	ボストン	マサチューセッツ造形芸術大学	Massachusetts College of Art and Design	○		○	○	○	○	○				△※2			2011年

※1 期限付協定 (クオピオ・デザインアカデミー:2014年度まで、セルジー高等美術学校(ENSAPC):2013年度まで。以後は協議の上更新。)

※2 留学先における学習に関して要相談

※3 先方との協議により、今後の学生交換を可能にしていく予定

芸術学部・大学院 学科別交換留学派遣・受入実績【2008年度～2014年度 累積】

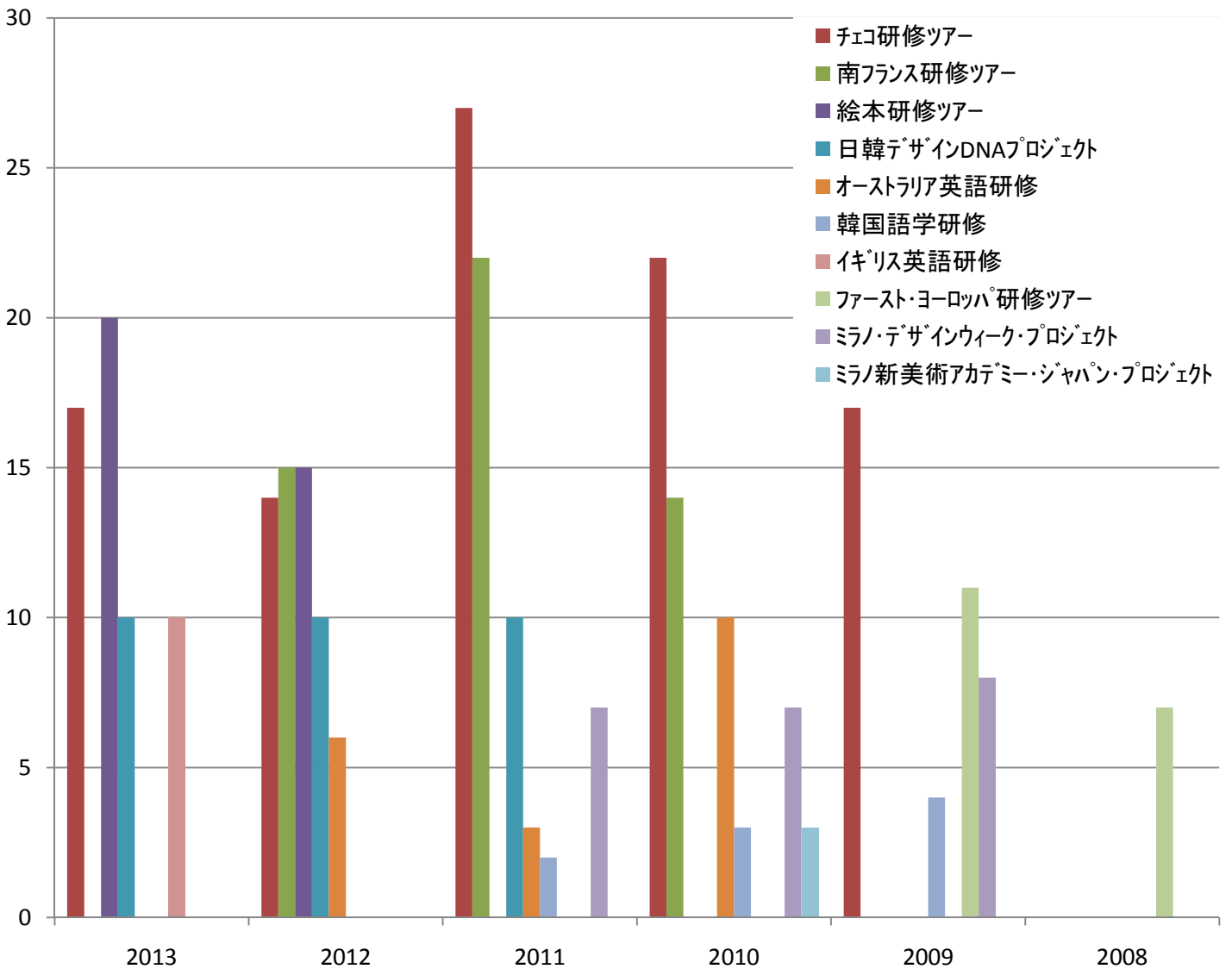
作成: 入学課国際交流担当

学生交流協定校名	派遣交換留学生数															受入交換留学生数														
	美工	マンガ	キャラ	情D	プロD	空D	環D	映画	舞台	文芸	ASP	こども	歴産	大学院	合計	美工	マンガ	キャラ	情D	プロD	空D	環D	映画	舞台	文芸	ASP	こども	歴産	大学院	合計
弘益大学校	1	1	1	2	.	.	.	3
韓国芸術総合学校	1	1	2	1	1	1	3
国立台北芸術大学	1	1	1	1
グラスゴー美術学校	1	1	2	1	1
ポーンマス芸術大学	.	.	1	1	2	.	1	7	2	10
ボゼン・ボルツァーノ自由大学	.	.	.	1	2	3	6	6
ミラノ新美術アカデミー	0	0
ウィーン美術アカデミー	0	1	.	.	1	2
チューリッヒ芸術大学	4	.	.	2	.	3	2	1	12	2	.	1	3	.	9	.	.	1	1	17
ジュネーブ造形芸術大学	4	.	.	3	7	6	.	.	6	1	13
コンストファック/国立芸術工芸デザイン大学	2	2	1	.	.	1	2
ブラハ芸術建築デザインアカデミー	1	1	.	.	.	1	1
国立芸術アカデミー映画学部	0	0
サヴォニア応用科学大学クオピオ・デザインアカデミー ※1	0	1	1
セルジー国立高等美術学校 ※1	0	2	1	3
国立高等装飾美術学校	1	1	1	1
国立高等写真学校	2	2	3	.	.	1	4
マサチューセッツ造形芸術大学	.	.	.	1	.	.	1	2	.	.	.	2	2
合計	12	0	1	8	4	5	5	1	1	0	0	0	0	1	38	17	1	8	17	7	10	0	0	2	1	2	0	0	5	70

海外研修・ツアー・プロジェクト 学生参加実績

作成: 入学課国際交流担当

年度	チェコ研修ツアー	南フランス研修ツアー	絵本研修ツアー	日韓デザインDNAプロジェクト	オーストラリア英語研修	韓国語学研修	イギリス英語研修	ファースト・ヨーロッパ研修ツアー	ミラノ・デザインウィーク・プロジェクト	ミラノ新美術アカデミー・ジャパン・プロジェクト	合計
2013	17		20	10			10				57
2012	14	15	15	10	6						60
2011	27	22		10	3	2			7		71
2010	22	14			10	3			7	3	59
2009	17					4		11	8		40
2008								7			7
合計	97	51	35	42	19	9	19	18	22	3	315



■ 2014年度 国別留学生数(05.01現在)

作成:入学課国際交流担当

	1年生		2年生		3年生		4年生		小計		M1年生		M2年生		小計		D1年生		D2年生		D3年生		小計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
韓国	6	15	11	7	6	18	10	22	33	62		2	1	2	1	4				2			0	2	102
中国	3	3	6	2	2	3	4	3	15	11	8	7	6	9	14	16				1			0	1	57
台湾		2		7	2	1		3	2	13	2	3	0	7	2	10		1					0	1	28
タイ	1					2			1	2					0	0							0	0	3
ロシア									0	0					0	0				1			0	1	1
インドネシア			1						1	0					0	0		1					0	1	2
イタリア									0	0					0	0					1		1	0	1
カナダ	1								1	0					0	0							0	0	1
アメリカ			1						1	0					0	0							0	0	1
キプロス									0	0			1		1	0							0	0	1
シンガポール						1			0	1					0	0							0	0	1
ギリシャ									0	0		1			0	1							0	0	1
オーストラリア									0	0	1				1	0							0	0	1
小計	11	20	19	16	10	25	14	28	54	89	11	13	8	18	19	31	0	2	0	0	1	0	1	6	200
合計	31		35		35		42		143		24		26		50		2		4		1		7		

学部: 143

修士: 50

博士: 7

■平成 25 年度財務状況報告

平成 25 年度決算では帰属収入が 10,165 百万円となり、昨年度の 8,387 百万円から 1,778 百万円と大幅に増加している。これは、専門学校法人統合に伴い、専門学校と日本語学校の経常的な収入が加わったことに加え、専門学校法人財産の受入に伴う寄付金の増加、直心耐震工事などに伴う大型の補助金を受けたことによるものである。これら寄付金と補助金の特殊要因を除外すると、帰属収入は 9,376 百万円となる。

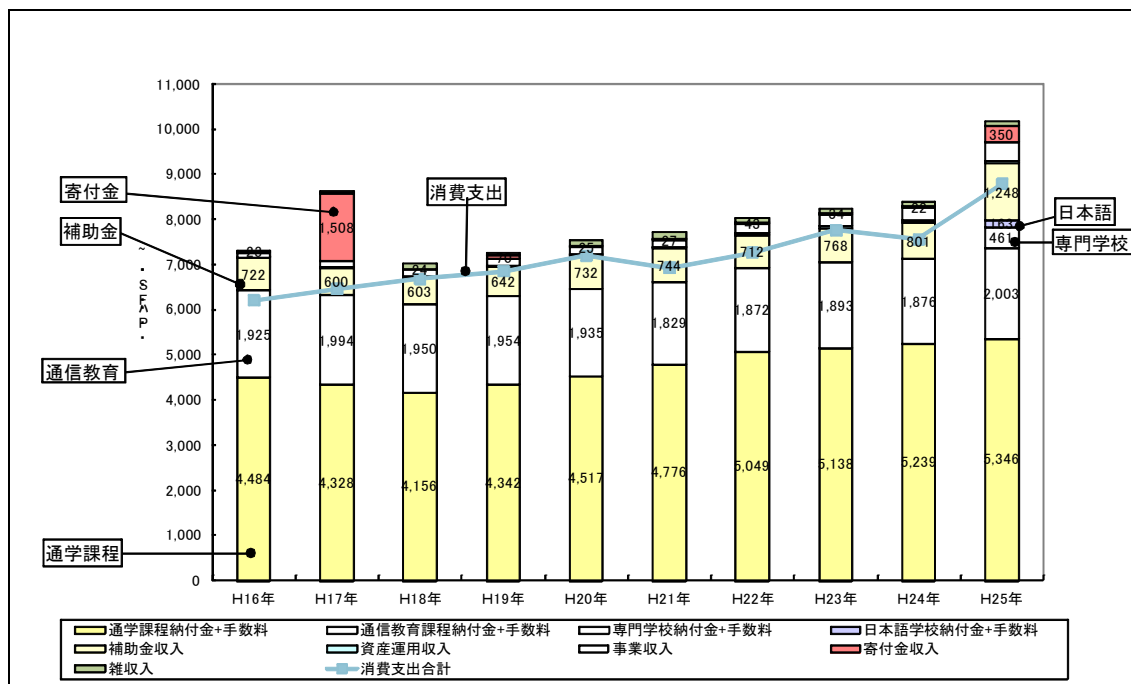
通学課程においては平成 17～18 年度に定員超過率の是正のため入学者を抑制した後、学生生徒納付金と手数料収入の合計は一貫して増加を続けている。通信教育課程においては、平成 21 年度以降 18 億円台を推移していたが、芸術教養学科開設に伴う在学生数の増加により学生生徒納付金と手数料収入の合計が初めて 20 億円を超えた。

消費支出の部の特殊要因としては、合併に伴う処理が合併受入差額として資産処分差額に 379 百万円計上されている。

合併に伴う特殊要因があることから、人件費比率、帰属収支差額比率、キャッシュフロー比率は良好な水準となっている一方、教育研究経費比率は低い水準となっている。これら特殊要因を除いた場合の人件費比率は 40.4%、教育研究経費比率は 37.5%、帰属収支差額比率は 10.4%となっており、おおむね例年の水準となり良好な結果となっている。

人間館建設時の大型設備投資の借入金は順調に返済が進んでおり、当該借入金の期末残高が 2,544 百万円となっている。また、平成 25 年度は専門学校法人統合に伴い 998 百万円の借入金を引継ぎ、内 332 百万円の返済を行った。さらに、耐震工事などに伴い新たに市中金融機関から 700 百万円を借り入れたことから、長期借入金の期末残高が 3,910 百万円と増加した。本年度に発生した新たな借入金は 3～5 年で完済することとしており、また前受金を除いた負債率も 17.1%となっていること、キャッシュフローが 2,449 百万円あることから、問題のない水準と判断している。

帰属収入および消費支出推移



消費収支・収支差額・借入金残高推移(単位:百万)

	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年
通学課程納付金+手数料	4,484	4,328	4,156	4,342	4,517	4,776	5,049	5,138	5,239	5,346
通信教育課程納付金+手数料	1,925	1,994	1,950	1,954	1,935	1,829	1,872	1,893	1,876	2,003
専門学校納付金+手数料										461
日本語学校納付金+手数料										163
補助金収入	722	600	603	642	732	744	712	768	801	1,248
資産運用収入	16	20	19	24	30	25	43	52	56	55
事業収入	106	125	145	157	165	157	206	246	285	425
寄付金収入	23	1,508	24	70	25	27	43	34	22	350
雑収入	33	43	106	47	135	145	97	91	107	113
帰属収入合計	7,309	8,617	7,004	7,237	7,538	7,703	8,021	8,224	8,387	10,165
基本金組入額	△ 1,905	△ 2,391	△ 883	△ 1,540	△ 1,604	△ 1,155	△ 1,110	△ 518	△ 1,432	△ 1,670
消費収入合計	5,404	6,226	6,121	5,697	5,934	6,548	6,912	7,705	6,955	8,495

人件費支出	2,696	2,779	2,876	2,937	3,190	3,192	3,351	3,474	3,427	3,790
教育研究経費支出	2,664	2,905	2,840	3,090	3,084	2,900	2,981	3,230	3,245	3,499
管理経費支出	670	625	656	699	814	727	771	733	788	974
借入金利息支出	170	143	125	111	102	105	88	76	67	64
資産処分差額	4	8	190	15	3	5	69	244	35	434
徴収不能額	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0
消費支出合計	6,205	6,461	6,688	6,853	7,193	6,929	7,260	7,758	7,563	8,778

消費収支差額	△ 801	△ 235	△ 567	△ 1,156	△ 1,259	△ 380	△ 349	△ 53	△ 607	△ 284
帰属収支差額	1,104	2,155	316	384	345	775	761	466	825	1,386
キャッシュフロー	1,799	2,874	1,068	1,107	1,109	1,562	1,610	1,333	1,716	2,449

借入金残高	7,110	6,289	5,505	5,034	5,165	4,875	4,231	3,587	2,942	3,910
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

主要財務比率推移

人件費比率	36.9%	32.3%	41.1%	40.6%	42.3%	41.4%	41.8%	42.2%	40.9%	37.3%
教育研究経費比率	36.5%	33.7%	40.5%	42.7%	40.9%	37.6%	37.2%	39.3%	38.7%	34.4%
帰属収支差額比率	15.1%	25.0%	4.5%	5.3%	4.6%	10.1%	9.5%	5.7%	9.8%	13.6%
キャッシュフロー比率	24.6%	33.4%	15.3%	15.3%	14.7%	20.3%	20.1%	16.2%	20.5%	24.1%
前受金除く負債率	33.1%	27.8%	24.8%	23.0%	22.9%	21.2%	18.8%	17.1%	15.0%	17.1%

■学校法人会計と企業会計の相違点について

資金収支計算書は当該年度の教育研究活動に伴う全ての収入・支出の資金の流れを示したもので、企業会計におけるキャッシュフロー計算書に近いものとなっている。消費収支計算書は、当該年度の収入・支出の損益を示したもので、企業会計の損益計算書に相当するものである。基本金組入額は、学校運営で必要となる基本的な設備・備品(校地・校舎・備品・図書等)の資本的支出に充当するためのものである。資金収支計算書で本学園の1年の活動を、消費収支計算書で経営状態を、また貸借対照表で財務状態をご理解ください。

■平成25年度決算報告

1. 消費収支計算書

平成25年度は帰属収入が10,164百万円、消費支出が87,783百万円となり、予算に対し決算では収支差額が増加した。学生生徒納付金は通信教育課程後期入学者数の確定によるもの、事業収入は公開講座受講料収入(藝術学舎)と受託事業収入の確定によるもの、教育研究経費と管理経費は施設設備関係支出も含めた支出科目の確定によるものである。

2. 資金収支計算書

収入の部、支出の部合計ともに予算額より1,442百万円増の14,910百万円となった。収入の部では学生生徒納付金収入および事業収入は消費収支の項と同様。前受金収入644万円増加は決算による確定。借入金収入および資金収入調整勘定は合併に伴う受入処理によるものである。教育研究経費支出、管理経費支出、施設関係支出および設備関係支出の増減は、決算に伴う科目確定によるものである。借入金返済支出とその他の支出は合併に伴う受入処理によるものである。結果、次年度繰越支払資金が659百万円増の4,235百万円となった。

3. 貸借対照表

資産の部については、専門学校資産の受入等により3,118百万円の増加となった。現預金の減少は通学課程在学生の授業料支払期日を4月10日にしたことによる。長期借入金返済は返済一年以内のものも含め2,948百万円となり、前受金除く負債率が17.1%となった。

財 産 目 録

(平成26年3月31日現在)

I 資産総額	28,202,584,228 円
内 基本財産	22,599,824,947 円
運用財産	5,602,759,281 円
II 負債総額	8,513,661,110 円
III 正味財産	19,688,923,118 円

区分	金額
資産額	
1基本財産	
土地	81,237 m ² 6,036,633,575 円
建物	71,917 m ² 13,808,782,708 円
図書	189,288 点 1,091,031,850 円
教具・校具・備品	7,726 点 1,158,609,329 円
その他	504,767,485 円
2運用財産	
現金預金	4,235,588,256 円
その他	1,367,171,025 円
資産総額	28,202,584,228 円
負債額	
1固定負債	
長期借入金	3,032,580,000 円
その他	570,393,922 円
2流動負債	
短期借入金	877,290,000 円
その他	4,033,397,188 円
負債総額	8,513,661,110 円
正味財産 (資産総額－負債総額)	19,688,923,118 円

貸借対照表

平成26年3月31日

(単位：円)

資産の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
固定資産		23,297,022,548	21,600,176,689	1,696,845,859
有形固定資産		22,721,132,866	21,070,531,000	1,650,601,866
土地		6,101,627,915	5,450,325,302	651,302,613
建物		14,031,902,862	13,313,471,822	718,431,040
その他の有形固定資産		2,587,602,089	2,306,733,876	280,868,213
その他の固定資産		575,889,682	529,645,689	46,243,993
流動資産		4,905,561,680	3,483,630,636	1,421,931,044
現金・預金		4,235,588,256	3,148,585,783	1,087,002,473
その他の流動資産		669,973,424	335,044,853	334,928,571
資産の部合計		28,202,584,228	25,083,807,325	3,118,776,903
負債の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
固定負債		3,602,973,922	3,069,653,155	533,320,767
長期借入金		3,032,580,000	2,544,030,000	488,550,000
その他の固定負債		570,393,922	525,623,155	44,770,767
流動負債		4,910,687,188	3,728,203,838	1,182,483,350
短期借入金		877,290,000	404,250,000	473,040,000
その他の流動負債		4,033,397,188	3,323,953,838	709,443,350
負債の部合計		8,513,661,110	6,797,856,993	1,715,804,117
基本金の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金		30,067,762,567	28,397,868,376	1,669,894,191
第4号基本金		509,000,000	509,000,000	0
基本金の部合計		30,576,762,567	28,906,868,376	1,669,894,191
消費収支差額の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額		10,887,839,449	10,620,918,044	266,921,405
消費収支差額の部合計		△ 10,887,839,449	△ 10,620,918,044	△ 266,921,405
科	目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部および消費収支差額の部合計		28,202,584,228	25,083,807,325	3,118,776,903

資金収支計算書

平成25年4月 1日から
平成26年3月31日まで

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	7,893,928,000	7,862,067,750	31,860,250
手数料収入	107,887,000	111,814,530	△ 3,927,530
寄付金収入	337,813,000	342,553,879	△ 4,740,879
補助金収入	1,234,985,000	1,248,252,351	△ 13,267,351
国庫補助金収入	784,353,000	784,353,000	0
その他の国庫補助金収入	447,374,000	458,404,329	△ 11,030,329
地方公共団体補助金収入	3,258,000	5,495,022	△ 2,237,022
資産運用収入	49,714,000	54,645,406	△ 4,931,406
資産売却収入	0	150,000	△ 150,000
事業収入	247,362,000	425,324,944	△ 177,962,944
雑収入	63,116,000	107,794,120	△ 44,678,120
借入金等収入	700,000,000	1,698,840,000	△ 998,840,000
前受金収入	3,042,255,000	3,686,545,410	△ 644,290,410
その他の収入	142,039,000	149,919,563	△ 7,880,563
資金収入調整勘定	△ 3,499,632,000	△ 3,925,519,289	425,887,289
前年度繰越支払資金	3,148,585,000	3,148,585,783	
収入の部合計	13,468,052,000	14,910,974,447	△ 1,442,922,447

支出の部

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,786,322,000	3,795,050,242	△ 8,728,242
教育研究経費支出	2,746,106,000	2,427,963,257	318,142,743
管理経費支出	881,064,000	947,167,276	△ 66,103,276
借入金等利息支出	65,221,000	64,023,091	1,197,909
借入金等返済支出	737,250,000	1,736,090,000	△ 998,840,000
施設関係支出	1,229,295,000	1,175,399,784	53,895,216
設備関係支出	217,796,000	458,928,165	△ 241,132,165
資産運用支出	24,569,000	15,621,890	8,947,110
その他の支出	157,694,000	239,857,757	△ 82,163,757
[予備費]	150,000,000		150,000,000
資金支出調整勘定	△ 103,433,000	△ 184,715,271	81,282,271
次年度繰越支払資金	3,576,168,000	4,235,588,256	△ 659,420,256
支出の部合計	13,468,052,000	14,910,974,447	△ 1,442,922,447

消費収支計算書

平成25年4月 1日から
平成26年3月31日まで

消費収入の部

(単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	7,893,928,000	7,862,067,750	31,860,250
手数料	107,887,000	111,814,530	△ 3,927,530
寄付金	342,813,000	349,747,854	△ 6,934,854
補助金	1,234,985,000	1,248,252,351	△ 13,267,351
国庫補助金	784,353,000	784,353,000	0
その他の国庫補助金	447,374,000	458,404,329	△ 11,030,329
地方公共団体補助金	3,258,000	5,495,022	△ 2,237,022
資産運用収入	49,714,000	54,645,406	△ 4,931,406
資産売却差額	0	150,000	△ 150,000
事業収入	247,362,000	425,324,944	△ 177,962,944
雑収入	63,116,000	112,677,817	△ 49,561,817
帰属収入合計	9,939,805,000	10,164,680,652	△ 224,875,652
基本金組入額合計	△ 1,591,991,000	△ 1,669,894,191	77,903,191
消費収入の部合計	8,347,814,000	8,494,786,461	△ 146,972,461


消費支出の部


科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	3,769,997,000	3,790,024,218	△ 20,027,218
教育研究経費	3,620,810,000	3,498,705,953	122,104,047
管理経費	911,588,000	974,458,181	△ 62,870,181
借入金等利息	65,221,000	64,023,091	1,197,909
資産処分差額	402,796,000	434,360,623	△ 31,564,623
徴収不能額	200,000	135,800	64,200
[予備費]	150,000,000		150,000,000
消費支出の部合計	8,920,612,000	8,761,707,866	158,904,134
当年度消費支出超過額	572,798,000	266,921,405	
前年度繰越消費支出超過額	10,620,918,044	10,620,918,044	
翌年度繰越消費支出超過額	11,193,716,044	10,887,839,449	


平成 26 年 5 月 26 日

監 査 報 告 書

学校法人瓜生山学園
理事会 御中

監 事 齋藤利一郎 

監 事 松芝政雄 

監 事 湊 信明 

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人瓜生山学園寄附行第 7 条の規定に基づき監査報告を行うため、学校法人瓜生山学園の平成 25 年度（平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで）の業務及び財産の状況について監査を行った。

監査の方法は、理事会及び評議員会、他重要な会議に出席したほか、理事等から業務の報告を聴取し、重要な書類等を閲覧するとともに会計監査人と連携し、必要と思われる監査を行った。


監査の結果、学校法人瓜生山学園の業務は適正であり、計算書類等は当該年度末における財産の状況を適正に表示しており、学校法人の業務または財産に関し不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認める。


以上


平成 26 年 5 月 26 日

監 査 報 告 書

学校法人瓜生山学園
評議員会 御中

監 事 藤 利 一 郎 

監 事 松 芝 政 雄 

監 事 湊 信 明 

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人瓜生山学園寄附行第 7 条の規定に
基づく監査報告を行うため、学校法人瓜生山学園の平成 25 年度（平成 25 年 4 月 1 日
から平成 26 年 3 月 31 日まで）の業務及び財産の状況について監査を行った。

監査の方法は、理事会及び評議員会、他重要な会議に出席したほか、理事等から業務
の報告を聴取し、重要な書類等を閲覧するとともに会計監査人と連携し、必要と思われ
る監査を行った。

監査の結果、学校法人瓜生山学園の業務は適正であり、計算書類等は当該年度末にお
ける財産の状況を適正に表示しており、学校法人の業務または財産に関し不正の行為ま
たは法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認める。

以上